

聖徒の道

1975年9月20日発行（毎月1回20日発行） 第19巻第9号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 9 1975



末日聖徒イエス・キリスト教会

も く じ

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプラー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ
(内務伝達部長)
ジョン・E・カー
(配送翻訳部長)
ドイル・L・グリーン
(教会誌編集主幹)
ダニエル・H・ラドロウ
(教会教課企画調整主任)

国際機関誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木沼 修 一

悔い改めよ、さもなければ滅びるのであろう……マリオン・G・ロムニー……385
 日々の恵み……388
 イエス:いったいこの方はだれだろう……ジョン・F・ハイデンライク……390
 1974年統計記録……393
 煙突掃除屋のジミー・ドルー……トーマス・J・グリフィス……394
 カールトンビルへの転任……マーク・A・シンプキンス……396
 こうふくの木……エバ・グレゴリー・デ・ピメンタ……397
 おもちゃばこ……400
 かがやくかべ……アイリス・シンダガード……402
 ふさわしい神権者になろう……スペンサー・W・キンボール……404
 成功は克己によって計られる……N・エルドン・タナー……408
 勇気のある人が必要である……マリオン・G・ロムニー……411
 ローカルニュース……414

◇今月の表紙◇

フランク・ゲイル撮影によるアリゾナ神殿。内部改造後の4月15、16日、スペンサー・W・キンボール大管長により再献堂された。当神殿はヒーバー・J・グラント大管長によって最初の献堂が行なわれて以来48年間、数々の儀式を通して人々に恵みをもたらしてきた。裏表紙は神殿の庭で、エルドン・リンショッテン撮影によるもの。

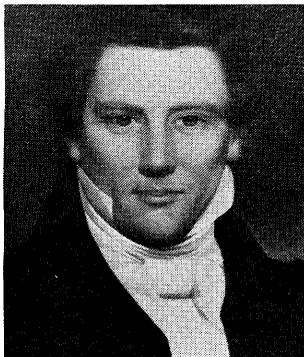
聖徒の道 9月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-8-10
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5-10-25
定 価 年間予約1,700円 1部 150円
海外予約2,200円

悔い改めよ、さもなければ 滅びるであろう

第二副管長

マリオン・G・ロムニー



(ジョセフ・スミス)

「されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶる様……」（教義と聖約1：17—18）

「悔い改めよ、さもなければ滅びるであろう」 私の判断では、現代の人々にとってこのメッセージほど大切なものはないと思う。

このことはアダムの時代から今日に至るまで、天父御自身と御子イエス・キリストにより、また権能を授けられた主の代理人、すなわち予言者の口を通して繰り返し、かつ厳粛に宣言されてきた。

このメッセージが真実であることは、宣言がなされるたびに現実のものとなっていることからわかる。

主はこの地上に置かれた最初の時代の人々に悔い改むべきことを求めて言われた。「御子を信じて彼らの罪を悔い改むる者は皆救われるべく、また信ぜずして悔い改めざる者は皆救われず」と。（モーセ5：15）

主はまたエノクに言われた。「これらの民に行きて言え、われ出で来りて咄いをもて彼らを打ち彼ら死なざるために悔い改めよ、と。」（モーセ7：10）

ノアが民に神に属けることを教えたとき、主はノアに言われた。「わが『みたま』常には人を励まさじ……されど、彼の寿命は百二十才なるべし。もし人悔い改めずんば、われ彼らに洪水を遣わさん。」と。（モーセ8：17）

こうしてノアはこの世で定められた齢の間、教えを説き続けたが、民は悔い改めようとしなかった。その結果、彼

らは洪水で滅ぼされてしまった。

イテル書には、ジェレド人についての話、すなわち大塔の時代に言葉を乱されてからおよそ2千年にわたってアメリカの地で繁栄した偉大な国家についての話が伝えられている。この民にも「多くの予言者が出てきて、大きな驚嘆すべきことを予言して国民に悔改めをせよとすすめ、国民が悔い改めない主なる神が裁きを下して全滅させたもうと告げ」た。（イテル11：20）

最後に召された予言者イテルは、「主の『みたま』に満されてその促しを拒むことができず、……国民に予言し、……朝から日の入るまで声をあげて、民が亡びることのないように神を信じて悔い改めよとすすめ」た。（イテル12：2、3）

しかし、民はこの警告に全く耳を貸さず、受け入れようともしなかった。イテルは生き長らえて同胞相争う戦争の様相を記録した。この戦いでは、イテルひとりを除いてすべての民が死んでいる。ノアの洪水以前の人々と同様に、彼らは厳しい手段で「悔い改めよ、さもなければ滅びるであろう」というメッセージが真実であることを知ったのであった。

古代アメリカにおいてジェレド人の後を継いだニーファイ人も、ジェレド人と同様の道をたどった。彼らの建国の

父は、ジェレド人の指導者やコロンブスのように神のみ手に導かれて、紀元前約600年、アメリカ大陸にたどり着いた。そして彼らの子孫はニーファイ人とレーマン人の二国家に分裂していった。

復活後、イエスはエルサレムにおいて弟子たちに教を授けられたが、それからしばしの間、このアメリカ大陸の弟子たちにも教を説かれた。

数千年にわたる歴史の中で、彼らは予言者から、また復活された主御自身から、この地を所有する民は悔い改めて神に仕えなければならないということを繰り返し教えられ、警告されている。

その例として、レーマン人の予言者サムエルはキリスト降誕の6年前に、ニーファイの民にこのように警告している。

「主はまたニーファイ人について、もしもニーファイ人悔改めをせず、また慎みてわがこころを守らずば、……のこらずこれを亡ぼすべし、主の生きて在ることの確なるごとくこれらの現わるるのもまた確なり、と仰せになった。」
(ヒラマン15：17)

またそれ以前にもこう言っている。「悔改めをして……主イエス・キリストを信ずる以外にこの民を救う方法はない。」(ヒラマン13：6)

このような警告も結局はすべて無視された。そして紀元400年頃、ニーファイ人は非常にかたくなな民となって罪悪を犯し、内乱によって完全に滅びてしまった。

「悔い改めよ、さもなければ滅びるであろう」というこのメッセージが真実であることは、他にもソドムとゴモラの焼き払われたことやエルサレムの滅亡が証明している。

私たちはこの事実をもとにして、今この地に住む民の状態を主がどのように見ておられるかを熟考するとよいであろう。

主は言われた。「それは彼らわが儀式より離れ去り、わが永遠の誓約を破りたればなり。」

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求めれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。それは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。

されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス(二代目)を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶ様誠命を与えたれど……。」

(教義と聖約1：15—18)

これまで引用してきた聖句は「悔い改めをしなければならぬ。さもなければ滅びる」ということを現代の私たちに十分に認識させてくれるものである。

そのような戒めはほかにも幾つかある。

「されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事のために備えをなせ、そは主の来るは近ければなり。」

而して主の怒りは燃え、主の剣は天にてうるおいたれば、今やこの世に住む人々の頭に下されん。

その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。

……悔い改めて主の誠命を行う者は赦されん。

而して悔改めをなさざる者は、彼のすでに受けたる光明までも取り去られん。……

人々よ、これらの誠命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誠命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり。」(教義と聖約1：12—14、32、33、37)

今まで取り上げてきた戒めの多くは、悔改めをしない者がどのような方法で滅びるかを詳細に予言している。たとえば、教義と聖約第5章には「この世に住める人々もしわが言を聴かざれば禍その人々に来らん。

そは、無人の境となるほどの懲しめこの世の人々の中に出で来り、世の人々悔い改めずんば度々引きつずき懲しめを蒙りてこの世は空しくなり、世の人々はわが来る時の光輝により焼きつくされてことごとく亡び失するに至ればなり。

見よ、この言はわれまたエルサレムの滅亡に就きて正にその民に告げたる如く語るなり。この事のかつて今までに実証せられし如く、今またわが言は実証せらるべし」とある。(教義と聖約5：5、19、20)

同じく第29章には、次のように記されている。主の恐るべき大なる日の来る前に「多くの人々のうちに泣き悲しむことあらん。

また、烈しき雹遣わされてために地の収穫は損われん。

また世に悪事あるが故に、悪しき人々の上にわれ応報を為さん。そは彼ら何としても悔い改めざるが故なり。そは、わが怒りのさかずき満ち充ちたる故なり。見よ、もし彼らわが言を聞かざればわが血彼らを潔めざらん。

これを以て、われ主なる神、また地の面にあぶを遣わさん。これらは地に住める人々にとりつけてその肉を食い、そこにうじを生ぜしめん。

而して人々の舌はこわばり、われに反して声を挙ぐるごと能わず、肉は骨より離れ眼は落ちくぼむべし。

而して、森の獣と空の鳥彼らを貪り食わん。」(教義と聖約29：15—20)

これらの聖句をはじめ、その他同じような内容を述べた数多くの聖句には、「悔い改めよ、さもなければ滅びるであろう」ということが明確に、また非常に力強く述べられている。しかしそれらは不人情でも、過酷でも、軽率なことでもない。ましてや気まぐれなことでもない。自然の法則を破ることにより、必然的に伴う結果を示しているにす

ぎない。その法則とは、「創世の以前より天に於て定められ、……あらゆる祝福はこれに基くなり」である。（教義の聖約130：20）

この警告はこれまで140年以上もの間、世の人々に宣べられてきた。世の人々はもう言い逃れをすることはできない。時のしるしは、この時代に最後の裁きの時が近づきつつあることを告げているのである。

「耳のあるものは聞くがよい。」（マタイ11：15）私たちが今までの数々の聖句に心を留めるならば、それによって私たちは時の「しるし」を理解することができるであろう。

しかしながら、暗い面と同様明るい面もあるように思う。真に聞く耳を持つ人は、古代、近代に語られたすべての警告に、人に喜びをもたらす光、すなわち希望を見出すであろう。歴史も聖典も、悔い改めざる者は滅ぼさるべしという警告と共に、悔改めをする者は生き永らえるという約束と証拠を十分に示してくれている。

アダムの時に、「主なる神は、聖霊によりて至る所人を呼びてその悔い改むべきを命じたまえり。

また御子を信じて彼らの罪を悔い改むる者は皆救われるべく……。」（モーセ5：14、15）

古えの世から学ぶ重要な教えが、エノクの市の行く末と洪水のときの邪悪な人々の最期に対照的に示されている。

エノクの時代はこうであった。「神に叛きて戦えるすべての民の上に咀い行きわたりぬ。

その時より彼らの中に戦と流血ありき。然るに、主来りてその民と共に住みたまいたれば、彼ら正義の中に住みたりき。

主の民の上にある主の栄光甚だ大いなりければ、すべての国民を怖れたり。……

主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。……

みよ、誠にシオンは時到期りて天にとり挙げられたるを……。」（モーセ7：15—18、21）

これと同じ例は、義なるニーファイ人が復活された主の教えを受けた後二百年間過ごしたこの上ない平和な社会と最後の滅亡に見ることができる。

それについては次のように記されている。

「第三十六年には、ニーファイ人とレーマン人とを問わず、全地の住民がみな心を改めて主を信ずるようになったので、その間に何の不和争論もなく一人のこらざる互いに正しく扱った。

民はその心に神の愛を保っていたから、全国に何ら不和がなかった。

……まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」（Ⅳニーファイ2、15、16）

私たちは、主がこの最後の神権時代に下された約束を知

っている。

紀元前550年の昔、ニーファイは示現で私たちの時代を目にし、予言のみたまにすすめられるまま次のように語った。

「主なる神は、その民を地上で元の通りに復すために、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々の中にその御業を始めたもう。

主なる神は義を以て貧しい者たちを裁判し、公平を以て世の柔和な者たちを叱って責め、神の口の棒を以て世を打ち、神のくちびるの息を以て悪人を殺したもう。

主なる神が民の中に甚しい分離を起したもう時が速にくるが、その時に神は悪人を亡ぼしてその民の命を助けたもう。また、たとえ助けるためには悪人を火で亡ぼさなくてはならなくても、その民を必ず助けたもう。」（Ⅱニーファイ30：8—10）

聖徒たちがミズーリ州のジャクソン郡から追い払われたとき、主は予言者ジョセフ・スミスに励ましとなる啓示を与えて言われた。

「われ誓を立て、……すなわち、われわが民のためにわが怒りの刃を下さんと。およそ今までにわが言いたる事は、皆その如くなるべし。

わが憤りは、これより間もなく万国の民に限りなく注がる。而して、われこのことを彼らの持つ邪悪のさかずき満つる時に為さん。

その日、すべてのやぐらの上に在る者、すなわちわがイスラエルの民は救われるべし。

故に、シオンに就きて汝ら心安かれ。そは、一切生くる者わが手の中に在ればなり。汝らつつしみて、わが神なることを知れ。

シオンの子ら如何に追い払われるとも、シオンはその場所より移るべからず。

およそ亡びずして存し、心の清き者たちは帰り来らん。これらの人々とその子供たちは永遠の喜びの歌を唱いて彼らのゆずりに来り、シオンの荒れたる地を築き上げん。」（教義と聖約101：10—12、16—18）

話を終えるに当たって、教義と聖約に対する主御自身のはしがきを再び引用したいと思う。

「またわれ誠に汝らに告ぐ、世に住める人々よ。主なるわれは、これらの事を進んですべての人に知らせんと思うなり。

そは、われは人々を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日の速に来るを知らしめんと思えばなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。

されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。」（教義と聖約1：34—36）

滅びることのないように悔い改めることをへりくだり願うものである。

日々の恵み

掛けぶとん と誕生日

ゲイ・ガルト

末日聖徒一人一人の胸には、福音に従い、主を愛することによって得た日々の経験が刻まれているものです。これはだれもが持っている物語です。証を強くした経験、祈りが答えられたこと、神権による祝福、愛する家族や友人の受けた靈感、補助組織で働いて得た恵みなどの経験を他の教会員と分かち合しましょう。下記の宛先に原稿をお寄せ下さい。

〒106 東京都港区南麻布5-10-25 中正堂会館
末日聖徒イエス・キリスト教会翻訳事業部 八木沼修一

冷たい非情な雨が降っていました。14になる娘のホリーは、13キロ離れた町に歯医者予約がしてありました。

「さあ、行きましょう、ホリー」じれったくなった私は娘をせきたてました。「家に早くもどらなければならないのよ」私はすることがたくさんあったのです。

歯医者待ち時間はいつもより長くて、ホリーの治療が終わるともうお昼でした。ふたりともおなかペコペコだったので、近くの食堂で車を止めて簡単な昼食を取り、それから家に向かいました。

と突然、道のわきにぼつんと立っている老人の姿が目に入りました。老人は雨に濡れた古いフェルトの帽子をかぶって片手でステッキにすがり、左腕にはびしょぬれの買物袋をかかえて、袋の先からはパンがにょきっと顔を出していました。前かがみで、食料の袋を濡らさずに広い高速道路を横切ろうと懸命なのですが、どしゃぶりの雨とハイウェイの混雑に立ち往生していたのです。

そのとき、聖霊が私の心を暖かくやさしいもので満たしたような気がしました。それはちょうど心の中の静かな細い声が、私の息子であるこの老人を家まで乗せて行ってあげなさい、と言ったようでした。

はじめ、私は見も知らぬ人など車に乗せないで心配でしたが、まともな暖かい気持を感じたので、車を道の端によせて止めました、窓をあけると顔に雨と風が吹きつけてき



ました。私は「もしもし、お宅は遠いのですか」と声をかけました。

老人は、「この道路を渡るだけなんです。向こう側の2、3丁ほどのところなんです」と答えました。

私がニコッと笑って「さあさあ、お早く、どうぞ」と言うと、彼は助かったふうな様子で車に乗りました。もうこのときには車が数珠つなぎになっていて、警笛がけたたましく鳴っていました。私はシートに座って、さてどうしたら反対方向にある彼のうちまでハイウェイの右レーンを越えて行けるものかしらと、瞬間、途方に暮れました。すると不思議なことに数台の車が止まって、私に前を横切れという合図をしました。車がハイウェイを出て老人の家に向かうと、彼は言いました。「おお、おお、何とありがたいこと。ご親切に。妻が去年腰を痛めたんですが、2、3週間前、また転んで悪くして、家まで連れて帰ったようなわけです。ここの家に引越してきたばかりで、私が料理から洗濯から病妻の世話まで、みんなしているんですよ」

彼は車から降りるときに私を振り返って、小声ではにかんだようにおっしゃいました。「家においでいただけたらうれしいんですが。お客が楽しみなもので」

私は同情の気持が胸に迫り、彼ら夫婦の寂しいことや、彼が人との接触を求め、寝たきりの妻を慰めてくれる人を望んでおられることを知りました。すると急に、また聖霊の暖かい気持を感じてかつて経験したことのない特別な力を身に覚え、その老夫婦のことが何か理解できるような気持になってきたのです。聖霊が私の心を満たし、何をすべきかという考えを教えてくださいのあの気持は、とても言葉では表わせません。私たちは黙ったまま町に着き、食料品店へ行って買物をしました。家に帰ってから、私が「ホリー、一緒にひざまずいて祈る？」と聞くと、ホリーはうなずきました。そこで私たちはすぐさまひざまずいて、この一風変わった仕事について主の導きを願ったのです。間違いをしたくなかったからです。クリスマスのかごにいろいろ入れて困っている家族に届けたことは以前にありましたが、そのとき老夫婦のために選んだ物は、見ず知らずの人に贈るような品ではありませんでした。たとえば掛けぶとんがあって花束があって、電球と小さな懐中電燈、風邪薬やせき止めやプラスチック洗面器、水呑み、雑誌、それに特に気をつけて選んだ1週間分の食料。肉類も入れましたが、ほとんどは我家の戸棚から出してきた食料でした。

私が鮮やかなワインカラーの掛けぶとんを持って下に降りて来ると、ホリーはげげんそうに言いました。「まあ、母さん、掛けぶとんまで。ご冗談でしょう！」でも、私はそれがいるという気がして、そのまま荷物の中に入れました。私たちは必要な品物をみんな集めたのを確かめて、もう一度ひざまずき、あの家へ無事に行けて、ちゃんと用を済ませて来られるように主に願いました。

家の前まで行くとちょっとためらう気持がしましたが、私はホリーに荷物を車の中に置いて様子を見てみようと言いました。どうしてよいかわからず、内心不安だったので、ドアをノックしました。すると、聞いたこともないようなとてもやさしい声で、「どなたでしょう、どうぞ」というお返事でした。

私は言いました。「びっくりなさらないで下さい。私はさきほどご主人を車にお乗せした者です。」

彼女は私たちを中に招き、私たちは彼女の寝室まで入っ

ていきました。ベッドにやさしそうなご婦人が寝ていました。顔には闘病の疲れがにじんで、苦しらしい様子なのがわかりました。私は笑顔で、自分たちの訪問のいきさつをこう説明しました。「ご主人をお送りしたあとで、必要な物を買って行ってさしあげたいと、心にとっても強く感じたんですよ」彼女は理解したようなので、私は先を続けました。「きつと掛けぶとんがお入用だという気がしきりにして、一番最初にリストにあげたんです」ホリーが荷物を車から運んで来て、掛けぶとんを取り出して彼女にさしあげると、彼女は喜びと期待に目を丸くなさいました。

「まあ！こうやって寝ているのもいいかげん飽きて、明るい色の掛けぶとんが欲しかったんですよ。何度も何度もお祈りしてたんです」ホリーが花を持ってくると、あの方は指で目をおおって、ひとつ出すごとに指の間からのぞいていました。外出中だったご主人も部屋に入って来られて、それからの30分はまるでクリスマスのプレゼントを開くようでした。ご主人が懐中電燈をみつけて、「やあ、これは私にですね！これで手さぐりをせずに、夜手洗いにいけますよ」とおっしゃるのを、私たちはうれしい気持で見えていました。

「ね、あなた、電球がいらいますね。そしたら本が読めるわ」

「ああ、ありますよ」私は小さく叫ぶように言って、電球と雑誌を取り出しました。

そのあとでご夫婦がおっしゃるには、朝郵便で来たはずの年金小切手をなくしてしまい、次の来るまで1週間、援助が必要だったということでした。奥様は風邪ぎみだったのに、ご主人は薬を買うのを忘れていたとおっしゃいました。せきがひどくて腰にひびくのだそうです。私たちが買物のリストにあげたどの品も、必要なばかりか、ご夫婦にぴったりの品でした。

おふたりは最後に、どこかの教会に行っているのですかと私たちに尋ねられました。ホリーと私は、黄金の質問をする機会がやってきたのをうれしく思い、笑顔で言いました。「モルモン教会について何かご存知ですか」知らないとのことでした。私たちは、ふたりとも改宗したばかりのことを話し、福音がどのようにして回復されたか説明しました。私が48年間この真実の福音を捜し求めていたこと、毎日福音について新しいことを学んでいることも話しました。私たちが、宣教師から福音のことや主の救いの計画をお聞きになりませんかとうかがうと、聞いてみたいのご返事でした。

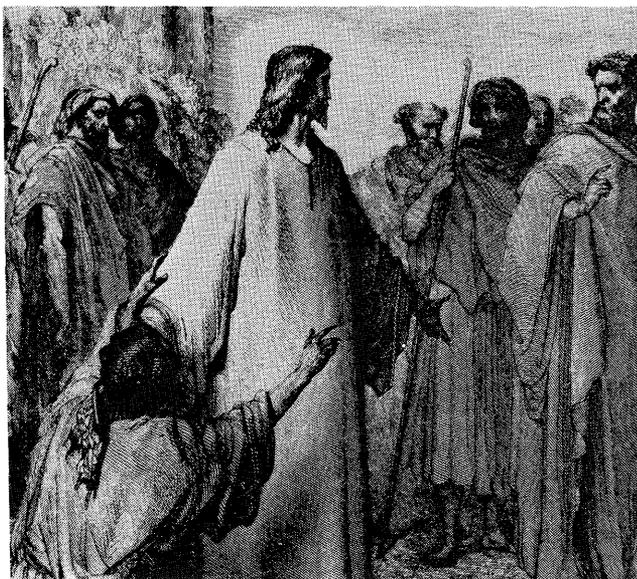
おいとまするときになって、奥様はご主人の方を振り向き、やさしくとがめるように、「お話したのね！」とおっしゃいました。するとご主人はすぐさま、「いや、ちがう」と答えました。また奥様は「お話したんでしょう」とおっしゃいます。ご主人はまた、「ちがうよ」と言われました。私は何のことかと思って、「何でしょうかしら」と聞きました。

すると彼女の目にもみるみる涙が浮かびました。彼女は、ベッドのうしろに手を伸ばして雨に濡れた1枚のカードを取り出し、私に手渡して、とぎれとぎれの声でおっしゃいました。「きょうは、わたしの、誕生日なんですよ」

(ゲイ・ガルト、主婦、モデスト・カリフォルニアステークス部モデスト第3ワード部若い女性の会長)

イエス： いったい、この方は だれだろう？

ジョン・F・ハイデンライク



「人々は悪霊につかれたおしをイエスのところに連れてきた。」(マタイ9:32)

救い主が伝道を始め、間もなく、弟子たちを連れて、ガリラヤ湖を舟で渡っておられたときのことである。イエスが眠りにつかされると、突然激しい暴風が起こった。そして舟を越えて波が押し寄せ、小さな舟は波に翻弄された。弟子たちは舟の扱いに慣れていながらもかかわらず、あまりの激しい嵐にすっかりおびえてしまい、イエスを起こして助けを求めた。そこでイエスは起き上がると、風と海をおしかりになった。するとすぐに海は静まった。

弟子たちはその力に驚いて言った。「いったい、この方はだれだろう。」

それからおよそ20世紀を経た今日でも、私たちは同じ質問を繰り返している。しかし聖典を丹念に読んでいくと、イエスは実に温かい心の持ち主であり、私たちが負う苦難を理解しておられる御方であることがわかる。それはイエス御自身、私たちが人間として味わう事柄を経験しておられたからである。

イエスは「わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に遭われたのである。」(ヘブル4:15)

このような聖典の教えにもかかわらず、キリストがどんな御方かということについて、人々の意見はまちまちである。紀元1世紀の異教の世界では、イエスは人間ではなく、一時的に人間に姿を変えた神とみなされていた。ところが最近、特に現代に及んで、人文主義はイエスを神や救い主とは考えず、単なる偉大な教師、指導者と見るようになって

イエスは神の御子である。しかし私たちと同じく死すべき肉体を持つ者として、どのような共通点を持っておられたらうか。……心からわき出る喜び、祈り、愛し、愛されたいという願い……

たのである。これらの考え方は共にキリストの本質を否定するものでしかない。

私たち、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、イエスが神性と人間性の双方を兼ね具えた御方であることを証するものである。文字通り、イエスは肉における神の独生子である。このキリストの持つ特質は、2色の糸で織り上げた織物のようなものである。どちらか1方の糸を抜けば、それは織物ではなくなってしまう。ここでは特に、私たちの現在の状態と同じように肉体を持ってこの地上で伝道しておられた、そのときにイエスが持っておられた特質をいくつか取り上げてみたい。イエスが具えていた最も賞賛すべき特質としてあげられるものに、イエスの心からわき出る喜びと、他の人に靈感を与え、信仰と喜びを得させる能力がある。イエスは、弟子たちに互いに愛し合うよう教えられた後、次のように語られた。

「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。」(ヨハネ15:11) またイエスは、天父に捧げた偉大な祈りの中で、自分の行なった伝道のすべてを説明し、次のように語っておられる。「そして世にいる間にこれらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの中に満ちあふれるためであります。」(ヨハネ17:13)

またあるときイエスは、七十人が伝道に大きな成功をおさめたことを「喜んで」報告するのを聞き、「聖霊によって喜び」を覚えられた。しかしイエスはその喜びを共にしながらも、弟子たちに、サタンを追い出す力を持っているからと言って喜ぶのではなく、彼らの名が「天にしろされていることを喜びなさい」と警告されたのであった。(ルカ10:17-21)

イエスはまた、弟子たちがイエスの死が近づいたことを感じ始めた頃、もうひとつの喜びについて語られた。主はこの悲しみの後に訪れる喜びについてこう告げておられる。「わたしは再びあなたがたと会うであろう。そしてあなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。」(ヨハネ16:22)

イエスは御自身の味わう苦しみを、子供を産む女性にたとえておられる。女性は子供を産んでしまえば、その苦しみも忘れる。それは、「ひとりの人がこの世に生まれた、という喜びがあるためである。」(ヨハネ16:21) 快樂は

お金で買うこともできよう。しかし、喜びの代価は苦しみでしか払うことができないのである。

イエスが有しておられたもうひとつの高度な人間的特質は、人々に寄せた大きな信頼である。七十人を遣わされたことは、イエスが並の能力しか持ち合わせない人々にも信頼を寄せたことの表われである。イエスはまた、弟子たちの中であって、絶えず信仰を育み、励ましを与えられた。癒されるほどの深い信仰を持っていた人々に対して賞賛の言葉を与えられた話は、マタイ9：22、15：28、マルコ10：52、ルカ7：50、17：19に記されている。

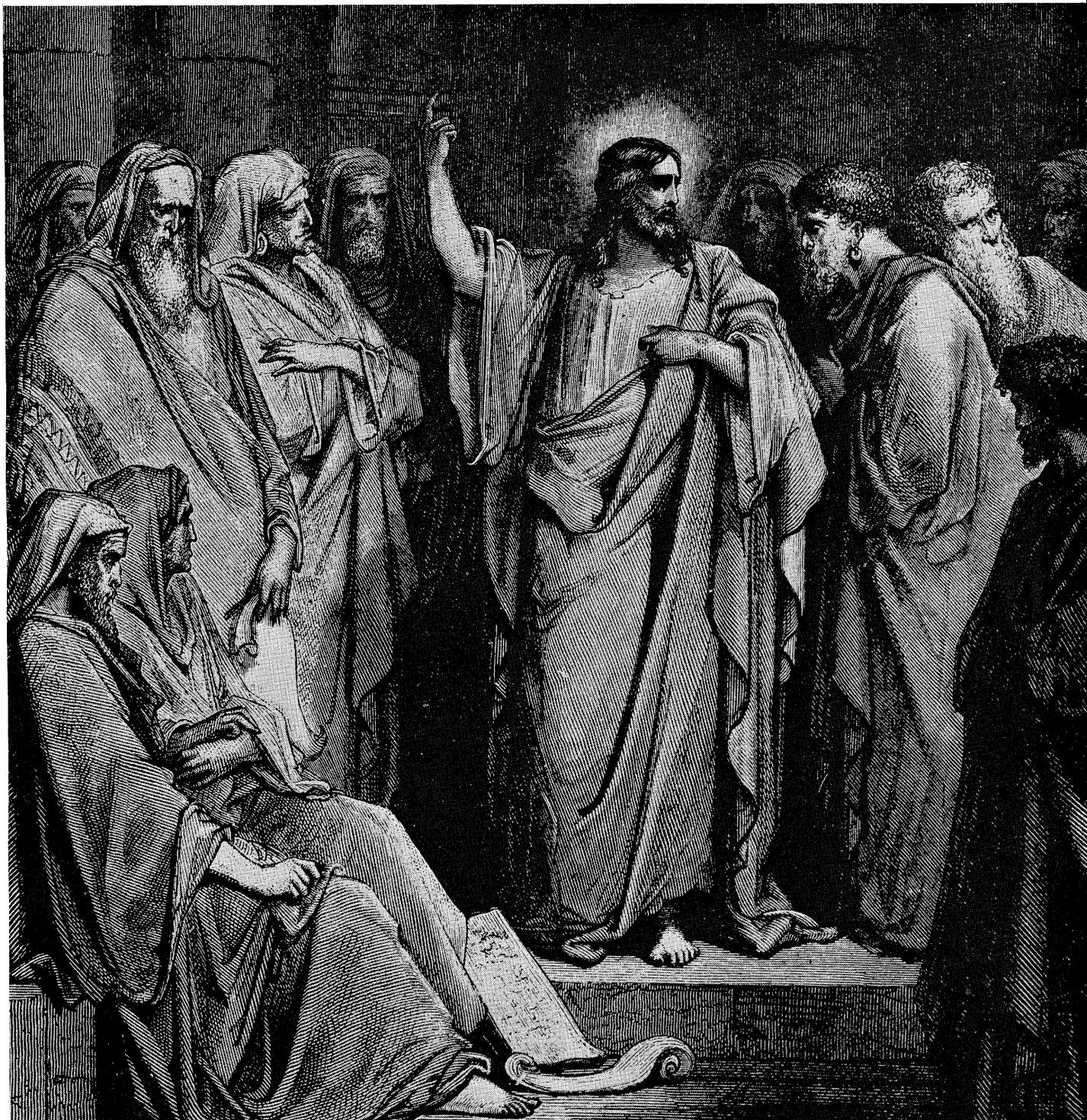
マルタが妹のマリヤを、夕食の手伝いもしないでイエスのみ言葉に聞き入っていると云って叱ったとき、イエスは

マルタをやさしく戒められた。これは明らかにマルタに驚くべき霊の成長をもたらした。そして兄の死に際して、マルタは信仰深い、霊の巨人となっていた。マルタはイエスを出迎えて言った。

「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。しかし、あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さることを、わたしは今でも存じています。」（ヨハネ11：21、22）

つまり、マルタの信仰は、ラザロの蘇生の奇跡に先だって、強められていたのである。

イエスが自己の人間性を示された最も著しい点は祈りにあった。何度も何度も、イエスは騒々しい群衆の前から退



いて、ただひとり祈りを捧げ、その慰めの中に新たな力を求めた。イエスが伝道の業を始められたのは、ユダの荒野における40日間の断食と祈りの後であったし、またこの世におけるイエスの最後の言葉は、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」（ルカ23：46）という天父への語りかけであった。

イエスは弟子たちに祈ることを教えられたとき、イエス自ら彼らの従うべき模範を示し、御自分の祈りの中にその教えを示されたことは疑うべくもない。

「祈る場合、……くどくどと祈るな」（マタイ6：7）

「自分のへやにはいり、……隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、……あなたの父は、報いてくださるであろう」（マタイ6：6）

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」（マタイ26：41）

「だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、……あなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう」（マルコ11：25）

「失望せずに常に祈る」（ルカ18：1）

恐らく、最も大切なことは次のことに違いない。「求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」（ヨハネ16：24）

さらに、他のいかなる面にもましてイエスの特質を裏付けるものは、イエスが私たちと同じように愛し、愛されたという望みを持っておられたことである。ここで再びイエスの模範とこの主題に関連する数多くの教えを見れば、イエスの使命の心髄は神と人類に対する愛であることがわかる。いずれか一方だけでは、この愛は存在しない。イエスはこれら両方の愛の模範をその生涯に示されたのであった。

イエスは悔い改めた罪人を無限の慈悲で救し、愛と救しをはっきりと結びつけて次のように語られた。「少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」（ルカ7：47）

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」（ヨハネ14：15） イエスは御父のみこころに従い、あえて十字架にかかることによって、完全な愛を示されたのである。

イエスはまた自らの経験を通して次のように戒められた。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。……それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全なものとなりなさい」（マタイ5：44、45、48）

上記の聖句において、鍵となる言葉は「それだから」である。つまりその前に条件となる節がなければならない。では、その条件節とは何だろうか。この聖句を十分に研究するならば、愛、すなわち敵さえも愛することが完全に至る道であることがわかる。キリストはすべての人に哀れみをもって接し、自分を十字架にかけた者たちまでも救すことによってこの特質を示されたのである。

イエスにとって、愛とは人を改宗に導く原動力であり、大きな要因でもあった。例えば、ペテロはイエスに従って、共に3年間を過ごした。そして数多くの弟子たちが去って

行ったときでも、イエスが神より召された御方であることの証を述べ続けた。そのペテロはキリストにつまずき、キリストを否定した。しかし、愛はなお人間を刈り取る最大の方法にほかならないのである。救い主はペテロに、「わたしを愛するか」（ヨハネ21：17）と尋ねたとき、このことを十分に承知しておられたのである。

ペテロは、イエスから3度も同じことを繰り返し問われて非常に悲しく思った。しかしイエスは、ペテロがもし自分を心から愛するならば、彼は立ち直り、他の人々を立ち直らせる力をも得るということを御存知であった。

イエスが苦痛と死を味わられたときほど、イエスの人間性が立証されている箇所はほかにない。イエスはひとりの人間としてピラトの前に立ち、神がこの地上にお立てになった人類の至上の模範を示されたのである。そしてこの世での最後の瞬間にも、母親のことを考え、また十字架にかけられたひとりの盗人に慰めと約束を与え、さらに自分に苦痛を与えた人々を救すように神に願っておられる。

キリストの反対者のひとりが、キリストは「他人を救ったが、自分自身を救うことができない」（マタイ27：42）と言ったが、まさにその通りであった。自らの命を犠牲にせず他人を救う者がいようか。イエスはこう言っておられる。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」（マタイ10：39）

偉大なキリストの贖いは人類全体にとって非常に重要である。それは、かつてこの地上に住んだ人々、また今生きている人々、そしてこれからこの地上で生を受ける人々すべての思いと行ないにかかわりを持つものだからである。このキリストが贖罪によって私たちのために行なってこられた事柄をすみからすみまで知っているのは、ただ神だけである。私たち人間にとって必要なことは、神の予言者により教えられた救いの計画を理解することだけであり、それがあらゆる人間の知識の中で最も大切なものなのである。イエスがこの人間性と神性というふたつの属性を持っておられなければ、救い主の偉大な贖罪は決してあり得なかったであろう。暗黒から愛と救しの驚くべき光の中に導かれ、さらに永遠の生命という約束を与えられていることは、何と大きな祝福であろうか。

私たちは、神の戒めに従うことによって、神の持つておられるすべての力、完全さ、喜びを享受することができるのである。

主は約束しておられる。「また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。

而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし」（教義と聖約84：37、38）

（ジョン・F・ハイデンライク兄弟は、元セミナー教師で、現在メサ・アリゾナ東ステキー部、第12ワード部の日曜学校教師をしており、ホームティーチャーでもある。）

1974年度 統計記録

— 管理監督会作成 —

大管長会は、1974年度末に教会員数に関する以下の統計記録を、教会員の資料として発表した。

教会ユニット

ステーク部数	675
ワード部数	4,756
独立支部数	1,195
ステーク部内の ワード部、独立支部の合計	5,951
伝道部数	113
伝道部内支部数	1,822

教会員数(1974年12月31日現在)

ステーク部内	2,960,143
伝道部内	425,766
合計	3,385,909

1974年中の会員数の増加

幼児祝福数	72,717
子供のバプテスマ数	47,234
求道者のバプテスマ数	69,018

一般統計(ステーク部、伝道部からの資料に基づく)

出生率(1,000人当り)	26.11
結婚率(1,000人当り)	14.29
死亡率(1,000人当り)	4.91

神 権

アロン神権者(1974年12月31日現在)

執 事	140,185
教 師	107,277
祭 司	170,867
アロン神権者合計	418,329
メルケゼデク神権者 (1974年12月31日現在)	
長 老	292,873
七十人	25,184
大祭司	104,919
メルケゼデク神権者合計	422,976
アロン神権者、メルケゼデク神権者 総計	841,305
(1974年中に29,357人の増加)	

教会組織登録会員数

扶助協会	861,272
日曜学校	3,101,281
アロン神権者(YM)	180,912
若い女性(YW)	178,307
初等協会	468,790
メルケゼデク神権M I A	650,000

福祉計画

被援助者数	109,212
雇用者数	17,346
労働奉仕日数累計	139,418
福祉操業日数累計	4,102

系図協会

神殿儀式のために
処理した名前の数 2,704,905
年度内に27ヵ国において、マイクロフィルムに収録された系図記録は、251,085,630メートルの長さとなり、これは300頁の本で3,992,911冊に相当する。

神殿の儀式

16の神殿で執行されたエンダウメント
生 者 37,432
死 者 2,535,518
合 計 2,572,950

教会の学校

在籍者数(インスティテュート、
セミナーを含む) 307,810

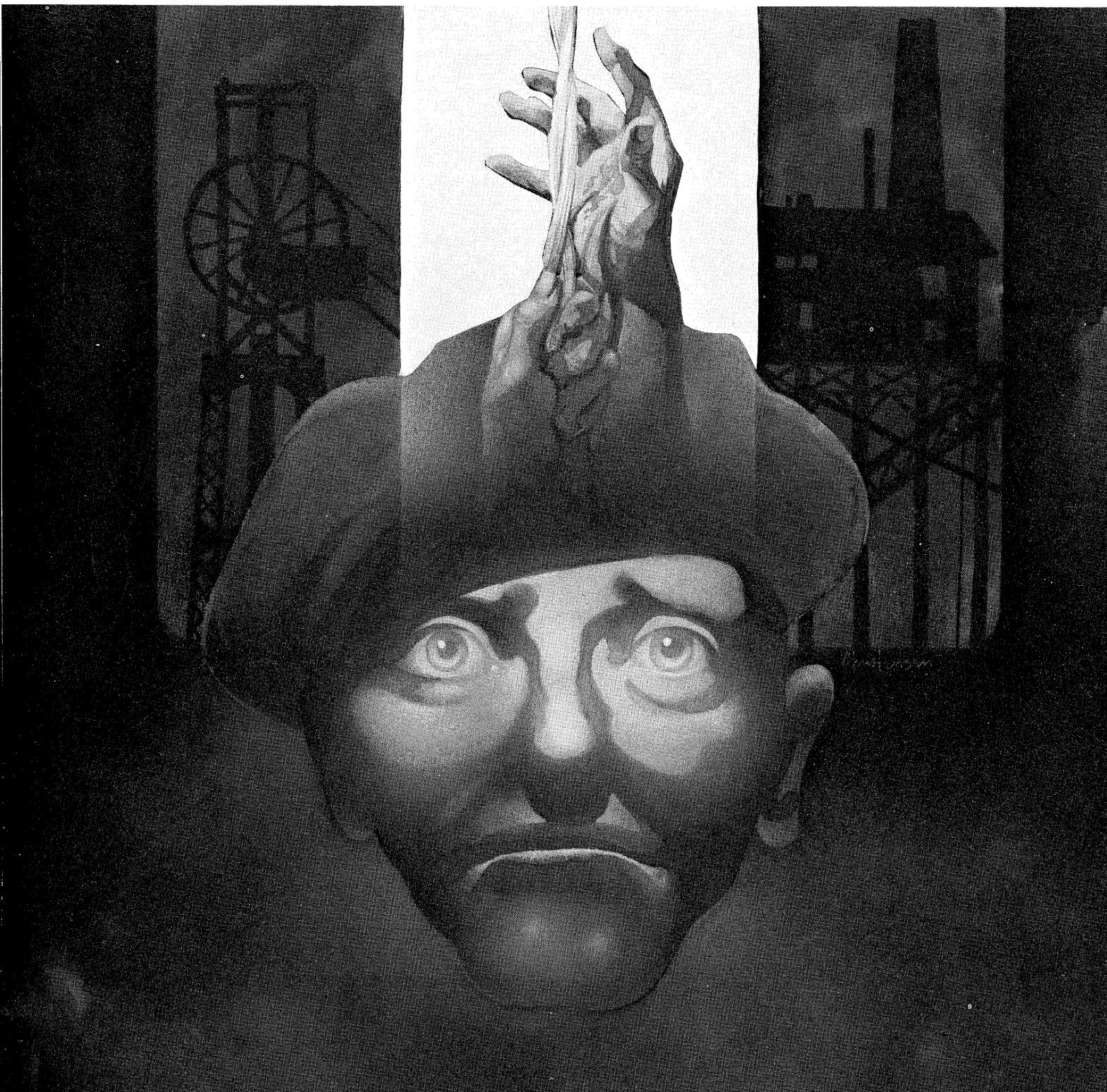
◇ ◇ ◇

年	ステーク部数	伝道部数	教会員総数
1963	389	73	2,117,451
1964	400	75	2,234,916
1965	414	74	2,395,932
1966	425	75	2,480,899
1967	448	79	2,614,340
1968	473	83	2,684,073
1969	496	88	2,807,456
1970	537	94	2,930,810
1971	562	98	3,090,953
1972	592	101	3,227,790
1973	630	108	3,321,556
1974	675	113	3,385,909

上の表はこの10年間のステーク部数、伝道部数、教会員総数を示したものである。

煙突掃除屋の ジミー・ドルー

おはなし・トーマス・J・グリフィス
さし絵・ジェームズ・クリステンセン



私は、少年だった頃にウェールズの片田舎で学んだひとつの教訓を、決して忘れはしない。私の家族は小さな炭鉱の村に住んでいた。村では石炭で暮らしをたて、料理にも、寒いときに炉で暖をとる燃料にも、石炭を使っていた。石炭をあまりたくさん使うので煙突にすすがたまる。だから煙突掃除は欠かせない仕事だった。

ところで村には、その汚ない仕事をする変わった小男がいた。醜い男だった。手指はふしくれたって曲がり、背は荷物を運ぶときのように丸かった。だが何といっても一番強烈な印象を受けたのは、話をしないことだった。唇からもれるたったひとつ、彼を知る限りの人がやっと理解できたその言葉は、「煙突掃除、煙突掃除！」という呼び声だけ。それがジミー・ドルーだった。

ジミーはだれにも面倒をかけなかった。ブラシの束を肩にかつぎ、異様な呼び声をあげながら村の通りを歩いていて、掃除を頼まれると煙突をきれいにし、すすを袋に詰めて持って行ってくれた。手間賃は2シリングで、そのやりとりも静かだった。ジミーはおしのように静かだったから。

私たち村の少年は、ときどき彼をからかっていた。彼の後ろを、ちょうどジミーのように背を丸くして手を熊手のように曲げ、おかしな呼び声を真似してついて行った。しかしジミーはまるで頓着しない様子で、私たちを目にもかけずに仕事に精出していた。

ある日、ジミーが家の近くに来たので、例によって私たちは彼をからかい始めた。ところが、このときまたまた私の父が後ろに来ていて、私たちのすることを見ていた。平素から父は紳士的だったが、そのときだけは、私の腕をわしづかみにし、うむを言わず家に連れ帰った。そして眼下に谷が見える大きな張出し窓のところへ私を引張って行って、指で私の顔をさしながら非常に厳しい声で言った。「プリンス

・オブ・ウェールズの旧炭坑が見えるか？」

古い炭坑はそこに見えていた。ものごころのつくずっと幼い頃から、炭坑はあったのだ。深い立て坑の上のやぐらはまだ健在で、しかしさびびり朽ちたり、腐食していた。

炭坑夫を立て坑に下ろす巻揚げ台は取り払われていて、立て坑そのものは重い板でふさがれ、まわりにすっかりさびついた大綱がまきついていた。この古い炭坑には、近づいた人を不安にさせる何かがあった。あるときなど、私の仲間の何人かが坑の入口の板をこじあけて、インクを流したようなまっくらやみに石を投げ込んだが、その石が下の水面にびちゃんと言った音が落ちるまで、1年もの時がたったような思いがしたものだ。

私は「父さん、プリンス・オブ・ウェールズは見えるよ」と答えた。

「そうか、よく聞きなさい。……これから話すことは、決して忘れちゃいけないことなんだ。」

そう言って、父は真剣な顔でこのような話を私にしてくれた。父がまだ青年だった頃、プリンス・オブ・ウェールズ炭坑はこの谷の誇りだった。村のほとんどの家から、だれかしらがこの炭坑で働いていた。ところがある春の日、地下の深い所で爆発が起こり、坑道に火事が発生した。救助隊が閉じこめられた男たちの所へなんとかして近づこうとしても、近づくと火に追われて引き返してきた。それで、炭坑の持ち主は炭坑を救うための最後の手段として、すぐそばを流れている堀割を炭坑に引き入れるように命じた。

184人の男たちや少年たちが地底に閉じこめられていた。爆発でやられなかった人たちも流れ込む水に浸かっていた。何百人の村人が炭坑のまわりに集まって、救出されるのを待っていた。しかし刻々と時間が過ぎるにつれて、希望が絶望に変わっていった。地下に下っていった救助隊が、沈痛な面持ち

で帰ってきた。

「事態は最悪で、生存の見込みはゼロです」という発表だった。

それでも村人たちは待っていた。地下深く埋まっている愛する人たちをそのままにして、自分だけ家に帰りたいとは思わなかったのだ。

そしてあれは、ちょうど太陽が山の頂上に姿を見せ、陽光が村に射しこめたときだった。だれかが大声で叫ぶので、みると巻揚げ台が上下している。2本の手が大綱をよじのぼっているのだ。みんなはわっとばかりに手をさし伸べて、その男を綱から引張り上げた。彼の両手には肉片がボロボロにぶらさがり、衣服はほとんど焼けてなくなっていた。みんなは彼をそっと下に寝かせ、医者が全力を尽くして手当てをした。男は死ぬ寸前だったが、暗闇の坑内から日の当たる地上へはい上がろうという気力が、その生還をもたらしたのだ。その男がジミー・ドルーだった。

みんなの口を突いて出たのは、「いったいどうして、爆発や火事や水をくぐり抜けて、何百フィートもあるスチールの綱をよじのぼって生還できたんだろう」という言葉だった。

その疑問は答えられなかった。慈悲の神が、ジミー・ドルーの心を閉じて、その恐ろしい経験を語ろうとさせなかったのだ。父が私に腕をまわしてしっかりと引きよせながら、ふたりで涙を流したあのときのことを、私は今でも覚えている。

私はその涙を恥ずかしいとは決して思わない。まだほんの少年だったが、私はその本当にあった話から、教訓をはっきりと汲み取っていた。その日以来、不幸を背負った人や障害のある隣り人を冷やかそうという気が起きたときには、またあの小さなウェールズの村の大きな窓の所に立って、プリンス・オブ・ウェールズ炭坑の谷を見下ろし、煙突掃除屋の小さなジミー・ドルーのことを考えるのだった。

カールトンビルの転任

マーク・A・シンプキンス

「長老、カールトンビルに転任です。午前中には到着するように。」伝道部長の言葉を聞いて、私はショックに耳を疑った。

同僚と私はそれまで長い間一生懸命に働いたが、福音に興味を持つ人たちを捜してもいっこうに成果は上がらず、伝道7ヵ月にして、私はすっかり意気消沈していた。そんなとき、私たちは60代も後半の魅力ある英国婦人フィリス・ジョンソンに会った。彼女は福音の話喜んでくれて、知れば知るほどもっと知りたがった。万事が何と順調に思われたことか。伝道がどんなに楽しかったことか。

私は彼女のバプテスマを楽しみにしていた。初めてのバプテスマが今度の土曜日だというのに、伝道部長は私を山のてっぺんから谷底に突き落とすのだ。伝道部長の部屋を出るとき、私は泣きたい思いだった。しかし泣くわけにはいかなかった。

そのとき、伝道部長がよく口にする靈感の言葉を思い出すと、心の中で何かがそっとささやいた。「マーク、彼が転任させたんじゃない。……転任させたのは主なんだ」と。

カールトンビルでの新しい同僚は、そこに来てもまだ1週間だというのに、それまでレッスンを受けたことのある人の名前を表に書き出して、私に教えてくれた。一緒にひざまずいて祈ると、自分たちの転任に特別な靈感が伴うのをふたりとも感じた。表にあげられた12人の名前を彼が読むと、私にはマーシャルという人の名前が心に刺さるよう感じられた。

マーシャル家までの狭い道は、生い茂った灌木と降りしきる雨のために歩きづらかったが、目ざす家に到着すると窓に明かりがついていた。マーシャル兄弟はそんなに寒い雨の夜にやってきた私たちを見て驚き、親切に中に招き、居間の古びた長椅子を勧めてくれた。マーシャル一家はニュージーランドの人で、奥さんがニュージーランドで献堂前の神殿に入ったことがあり、それから3人の幼児を連れて南アフリカへ移ってきたという。宣教師が話してくれたことは、たったひとつ什分の一の律法を除いて全部信じていた。

彼は言った。「これだけは受け入れられないんですよ。それにね、長老。」彼は声を落として、「払う余裕がないんです」と言った。彼は家中でふたつきりしかない椅子のもうひとつに腰かけて、すり切れて破れた自分の靴を見つめながらまた言った。「その……」しばらく口をつぐんでから、「私たちには余分の金などないんです。」

長い沈黙があって、やがてマーシャル姉妹がすすり泣きして言った。「この3日間、食べたものといえば、裏庭の木のアズを少しだけ、あとは何にも……」彼女は涙な

がら話してくれた。「どうしたらいいのか、本当にわからない。アズはもう終わったし、子供たちには食べ物くれとせがまれて。どこに行ったらいいのか。この辺の人はだれも知らないし。私たち、どうしたらいいんでしょう。」

この人たちに什分の一を納めよとだれが言えたものか。とそのとき急に、問題の答えがひらめいた。私に、それまで感じたことのない強い力が湧き起こった。少年の頃から什分の一を納めるように教えられていたことやそれが主の戒めであることが思い出された。什分の一を払う人には天の窓を開くと主が約束されたことも、それが金持にも貧乏人にも与えられている戒めだということも、私は知っていた。

長椅子の端から立ち上がると、私の胸に熱いものがあふれ、言葉が口をついて出た。「マーシャル兄弟姉妹、主のみ名によってお約束します。什分の一を納めて主の教会に入ったなら、あなた方はいつも食物と住む家に恵まれるでしょう。」

彼らふたりはみじろぎもせずに座りながら、その約束のことを考えていた。それからマーシャル兄弟が、奥さんをかたわらに、静かに言った。「長老、今聞いたことは全部真実です。やっとならなければならぬことがわかりました。」

私たちは彼らのバプテスマを次の土曜日に約束した。ところがその日の正午頃、私たちに伝道本部から電話が入った。「長老、バプテスマで伝道本部に来るときに、ふたりとも持ち物を持ってきて下さい。前の伝道地に転勤になります。カールトンビルは無期閉鎖されますから。」

このとき、私は同僚にその話を伝えながら泣いた。そして、ベッドのわきにひざまずいて主の許しを願った。主は、バプテスマの用意ができた素晴らしい霊の家族に遣わすために私を召された。それが何ヵ月に一度の、いやそれこそこれを逃したらまたとめぐって来ない最後の機会だということ、主は知っておられたのだ。私は、自分の道を望んだ私の身勝手を知り、これからは主の召しには必ず従うと、主に約束した。

それから1年半後、そこからほぼ500マイル離れたローデシアの教会堂で、私はアフリカで過ごす最後の証会の最前列に座っていた。その会では、古くさくてもさっぱりと洗濯された服を着た中年の婦人が、立って証をした。彼女にはじみ出る確信をもって、教会員であることや、福音の証や、雨が降る火曜日の晩にふたりの宣教師が家まで来てくれたことを主に感謝した。マーシャル姉妹は、あれから夫婦は多くの困難にあったが、什分の一を忠実に納めたために、「いつも食べる物と住む家に恵まれてきた」と話した。

(マーク・A・シンプキンス、ブリガム・ヤング大学在学中。BYU第10ステークBYU第34支部の神権会教師。)

(その2)

おはなし：エバ・グレゴリー・ド・ピメンタ
え　　：ジェームズ・クリステンセン



こうふくの木



あらすじ

アドリアンは、心のやさしい少年で、バイオリニストになりたいと思っていました。ある夜、アドリアンはジブシーのおばあさんと、友だちになりました。おばあさんは、「こうふくの木」のたねをくれました。お金もちのちぢめしが、木を売ってくれとやって来ましたが、アドリアンは、お金もちのいやしい心を見て、売ってあげるのをやめました。そして、いいことを考えました。

そうだ！ このたねを、みんなに売ってあげよう。
アドリアンは考えました。でも、そうしたら、ぼくは
お金もちになってしまう。お金もちの顔を、思い出すと、
アドリアンは、くらい気もちになりました。

そして、考えに考えたすえ、いいことを思いつきました。

アドリアンは、村の役場に行きました。おずおずと
中へ入って行って、古いつくえのむこうに、すわっている
人に声をかけました。

「村長さんですか」

「はい、ホセ・ロペスです。なにか、ごようですか」

「あのう、ぼく、広場に、こうふくの木のたねを、
うえようと思うんです。ぼくが、木のせわをしますから……」

こうふくの木は、どんどん大きくなりました。
あるとき、村長さんはアドリアンをよんで、いいまし

した。

「おれいに、なにかしてあげたいのだが」

アドリアンは、むねをドキドキさせながら、いいま
した。

「ぼく、おねがいがあるんです。バイオリンがなら
いたいんです」

「そりゃ、おやすいごようだ。バイオリンは、村の
お金で買ってあげよう」

アドリアンは、おどり上がってよろこびました。そ
して、家に走って帰りました。

「こうふくの木だ、ほんとだよ。ゆめがかなったん
だ」アドリアンは、お父さんとお母さんに話しました。

そして、広場のこうふくの木が花をさかせたころに
は、アドリアンは、だいふ、上たつしていました。

「あとは、町に行つてならうんだ、バイオリンをひ
いて、お金をもうけながら、ならいなさい」先生は
いいました。



アドリアンは町の先生のところへ行って、テストをうけました。でも、指はちっともうごきません。先生は、いかめしい顔で、にらんでいます。このチャンスをうしなったらだめだ。アドリアンは思いました。アドリアンは、こうふくの木のことに思いました。するとどうでしょう。アドリアンの指は、すべるように、うごくではありませんか。

「うーむ、それは一体だれのきょくだね。」先生は聞きました。

「ぼくのです。もっと、ひきましようか。」

「いや、よろしい。……きみは、いっしょうけんめい、べんきょうするかね。」

「もちろんですとも。」アドリアンは、おどりがあがってよろこびました。

アドリアンは、やどやの馬小屋をかりて、毎日レッスンにかよいました。一日も早く、コンサートに出たかったのです。

ある日、アドリアンが、やどやでバイオリンをひいていると、見知らぬ人が声をかけてきました。

「わたしの友だちに、バイオリンを聞かせてやってほしいんだがね。わたしはギリアーモ・プリエート、友だちというのは、ベイニート・ファレスなんだ。」

アドリアンは、それを聞いて、いきをのみました。ギリアーモ・プリエートというのは、ゆうめいな詩人で、ベイニート・ファレスは、メキシコの大とうりょうです。

アドリアンは、もうれつに、れんしゅうしました。でも、その日になってみると、ドキドキして、しかたがありません。アドリアンは、気もちをおちつけようと、ふえを、シャツのポケットに入れました。

ギリアーモ・プリエートのおやしきには、ゆうめいな人が大ぜいあつまっていました。

「なにか、ひいてくださいますか。」大とうりょう

は、いいました。アドリアンは、大とうりょうの顔を見て、はっとしました。かなしそうな顔だったからです。ここにいる、ゆうめいな人たちは、みんな、かなしそうで、さびしそうだ。アドリアンは思いました。

アドリアンは、バイオリンをケースにしまい、ふえをポケットからとり出しました。へや中に、ふえの音が、ひびきわたりました。ヒバリの声や、小川のせせらぎが、ながれるように聞こえました。えんそうがおわると、大とうりょうの目からは、なみだがあふれていました。

なん年もたって、アドリアンは、ゆうめいなバイオリニストになりました。ある日、アドリアンは人ごみの中で、こういう声を聞きました。「一どでいいから、い大なアドリアンの、えんそうが聞きたいなあ。」見ると、まずしい、くつみがきの少年でした。

アドリアンは、ケースからバイオリンをとり出して、ひきました。高く、ひくく、かなしく、楽しく。……ふと気がつくと、アドリアンは、こうふくの木のきょくを、ひいていました。

と、とつぜん、アドリアンは、たまらなく、こうふくの木が見たくなりました。村へ行ってみよう。アドリアンは、歩きはじめました。

アドリアンが村につくと、花のさくきせつでもないのに、こうふくの木に花がさきました。

アドリアンは、いいました。「こうふくというのは、あげることなんだ。わたしのもっているものを、みんなに……」

それからというもの、アドリアンは、バイオリンをひきながら、メキシコ中を、たびしました。

メキシコの人びとは、今でも、こうふくの木とアドリアンの物語を、語りつたえています。

「こうふく」それは、「あげる」ことなのです。

(おわり)

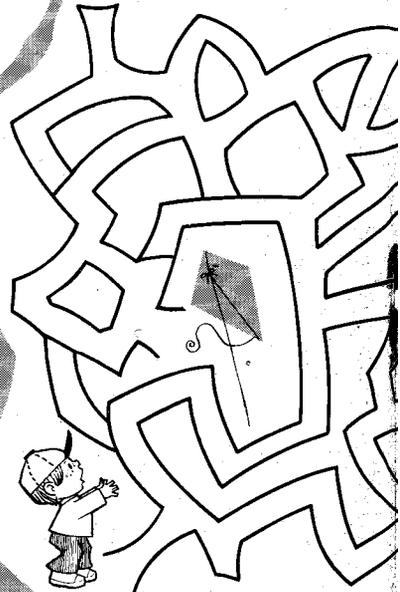
てんをむすんでみましょう

エバリン・シェパード



めいろ

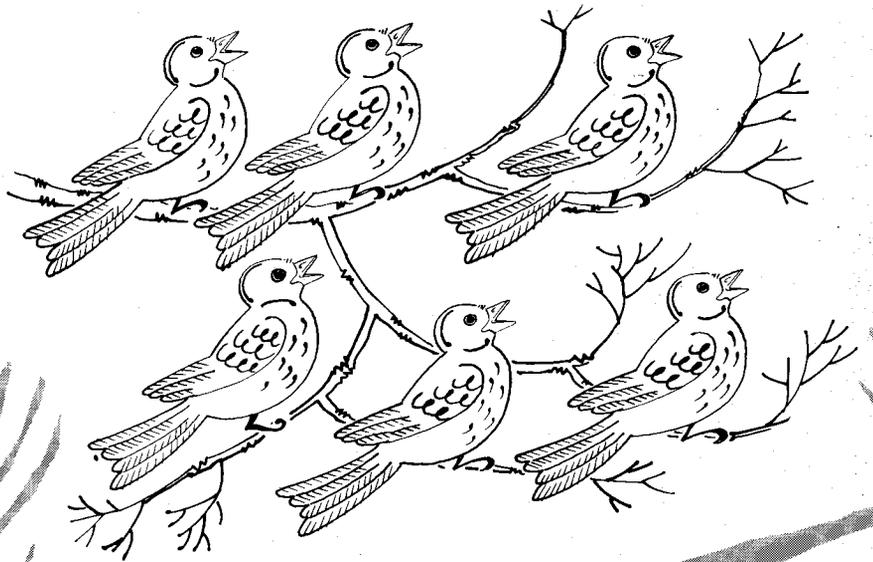
ビバリー・ジョンストン



たこをとりに、いきましよう。いきどまりにならないみちは、どれかな。

ちがうとりをさがしましょう

アン・ステイシー



紙のシャボン玉 チャンシー・モベリー

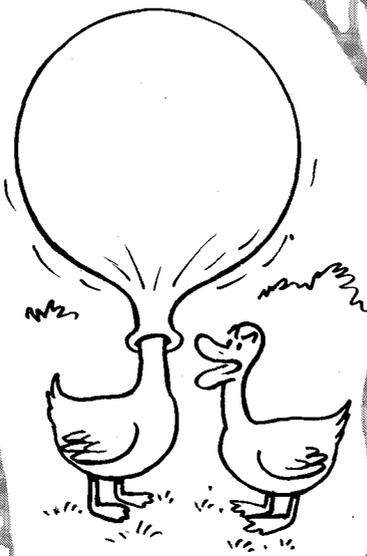
よういするもの：あつ紙のつつ、色紙、ハサミ、えのく、ふて

まず、あつ紙のつつに、きれいな色をぬります。かわいたら、つつの外がわに、「紙のシャボン玉ゲーム」とかきましよう。字は、ひとつずつ円てかこみましよう。

次に、色紙を使って、「紙のシャボン玉」を4つ切りぬきます。直けいは、つつの直けいよりも小さめにします。そして、表には、「せいこう」うらには「しっばい」とかきましよう。

4つの「紙のシャボン玉」をつつの中に入

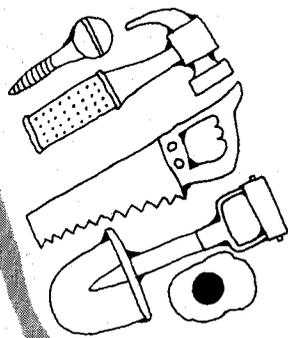
れて、ふいてみましよう。とばされた紙のシャボン玉が、ゆかにおちたとき、「せいこう」が出れば1てん、「しっばい」が出れば0てんです。さいしょに10てんとった人が、かちです。さあ、やってみましよう。



ふうせんを、ふくらまして
いるんだ。
これよりいい、
ほうほうは、
ちょっとない
ね。

これなあに

リチャード・ラタ



- かなづち
- ねじ
- のこぎり
- シャベル
- たまご



かがやく かべ

おはなし：アイリス・シンダガード



え：シェリー・トンブソン

ヒルダが夕食のしたくをしていると、お父さんが入ってきて、いいました。「古いおさらを、しまいなさい。お客さんが来るんだ。」

「どなたがいらっしゃるの。」お母さんが、いいました。

「きょう、神殿でいっしょにはたらいた人なんだ。ヒーバー・キンボールとブリガム・ヤングだよ。」

ヒルダはヤング兄弟が夕食に来ると聞いて、にっこりしました。オハイオ州のカートランドに来てから、お父さんといっしょにはたらいっている人たちは、たいていみんな好きでしたが、おもしろいお話をしてくれるヤング兄弟は、とくべつでした。

ヒルダは、お母さんといっしょに、小さいへやに入って行きました。そこには、大きなガラスのドアがついた戸だながあって、やきもののおさらが、しまっていてありました。どれも、とくべくな日にしか使いませんが、ヒルダは、ひとつひとつよく知っていました。

そこには美しいおさらと、おそろいの茶わん、小ざら、ふかざら、大きなスープざらが8組ありました。どの食器のまわりにも、美しい水色のやなぎのえだのもようが、ついていました。

お母さんが、食器を手わたすと、ヒルダは、ひとつひとつそっと受け取りました。

「これはね」お母さんはいいました。「あなたのひいおばあさんのだったのよ。ひいおばあさんは、1770年にイギリスから、これをふとんにつつんで、持ってきたの。あらしが来るたびに、おさらがこわれやしないかと、はらはらしたんですって。」

荷をほどいたとき、ひいおばあさんは、どんなにかうれしかったにちがいないと、ヒルダは思いました。そのときは、ひとつもこわれなかったのに、ヒルダはまだ小さいころ、

ヒルダのおばあちゃんが、おさらをひとつ、わってしまいました。ヒルダのお母さんは、よく、さとうつばをこわしてしまったときのことを、話してくれました。けっこんのおいおいに、ふかざらをもらったあとのことだったそうです。

「お母さん、ほんとにないちゃったのよ。だって、あれは大すきだったんですもの。」お母さんはいいました。

ヒルダは、こわれやすいやきものをそっと台所にはこびました。テーブルの用意ができると、お母さんは、水色の美しい水さしを持ってきました。この水さしは、今までに、ほんの2、3回しか使ったことがありませんでした。お母さんは、水さしをテーブルのまん中に、おきました。「ほら、テーブルがぐっと、ひきたつでしょう。」

すると、お父さんが、お母さんのかたにうでをまわして、いいました。「きれいだね。」でも、その声はかなしげでした。「使うきかいがあって、よかった。これがさいごかも、しれんな。」

ヒルダには、何のことだか、わかりませんでした。なぜ、もうその水さしを使わないのでしょうか。

ヒルダは、いつかその水さしを、まどのところへ持って行って、日にかざして見たことを、思い出しました。そのとき、お父さんは、上とうのやきものは、すきとおっているのだと教えてくれました。それから、その水さしは、むかし、お父さんのおばあさんが、オランダから、もってきたものだということも。

ノックの音がして、お父さんはドアをあけ、外に立っている、ゆうめいなふたりの人を、むかえ入れました。「お客さんだよ。」お父さんの声で、ヒルダとお母さんも、いそいでむかえに出ました。

食事の間、ヒルダは、お父さんがお客さんと話すのを、楽しそうに聞いていました。お父さんたちは、どのようにして、神殿をたてたかを話していました。

「カートランドの聖徒たちは、みんなきょうりよくしましたよ。」キンボール兄弟はいいました。

「人数は少ないし、みんなまずしい。しかし、信仰においては、とんできますからね。兄弟たちが、けんちくのごとをしている間、姉妹たちは、糸をつむいだり、はたをおったり、するんですよ。」ヤング兄弟はいいました。

キンボール兄弟は、おさらのそばにあった、茶わんをもち上げながら、いいました。「今、姉妹たちは、高価な食器を、さし出しているんです。」そして、お母さんの顔を見ながら、美しい水さしを、指さして、たずねました。

「それもですか、姉妹。」お母さんは、うなずきました。「ええ、ヤング兄弟、もし、ご入り用なら。」お客さんが帰ったあと、ヒルダは、おさらをあらって、戸だなへ入れてつづいをしました。ガラスのドアをしめたとき、お母さんのほほに、なみだがつたって、おちました。ヒルダは、なぜみんなが、そんなになしそうなのか知りたいと思いました。

次の日の午後、お父さんが早く家に帰ってくるのを見て、ヒルダはびっくりしました。ふだんなら、カートランドで家具つくりのごとが出来れば、神殿をたてるしごとをしているのです。お父さんは、お母さんに、しずかにこういいました。「用意ができたよ。」

「ヒルダ、てつだってちょうだい。」そういうと、お母さんはヒルダをつれて、おさらの戸だながあるへやへ行きました。ゆかには、大きなはこ

が、おいてありました。

「やきものを、このはこにつめなくちゃいけないのよ。神殿をたてるのにいるの。」ヒルダは、なぜやきもののおさらや、高価な水さしが神殿をたてるのにいるのか、わかりませんでした。お父さんはやきものを入れたはこを馬車にのせました。そして、みんなで神殿がたてられている、がけのところまで行きました。

ヒルダは、馬車からおりて、お父さんについて行きました。そこでは男の人たちが、大きなおけの中をかきまわしていました。

少しかがみながら、お父さんは、大きな声で言いました。「神殿の外がわをぬる、しっくいを作っているんだよ。しっくいに、やきもののかけらを、まぜるといいんだ。やきも

のや、ガラスのかけらが、キラキラ光って、とてもきれいなんだよ。」

すると、近くにいた男の人がいました。「末日聖徒の姉妹たちは一番いいやきものを、神殿にさし出していますよ。」

お母さんが、美しいやきものをはこから出して、大おけのそばにいる男の人に、ひとつひとつわたすのを見たとき、ヒルダは自分の目をうたがいました。男の人は、それを平らな板の上でこなごなにし、かき集めて大おけの中に入れました。

水色の水さしがくだかれて、しっくいの中にまぜられるのを見たとき、ヒルダは、なき出してしまいました。

「かなしんじゃいけないのよ、ヒルダ。」お母さんは、ヒルダのかたに、そっとうでをまわしました。で

も、からっぽになったはこをつんだ馬車が、おかをおりて行くあいだ中、ヒルダは、声をひそませて、ないていました。

ある日の夕方、神殿がかんせいしました。ヒルダはお父さんやお母さんといっしょに、美しい神殿のほうへ、歩いて行きました。日がしずみかけたとき、ヒルダは神殿のかべを見ました。日の光に、かべはキラキラとかがやいていました。

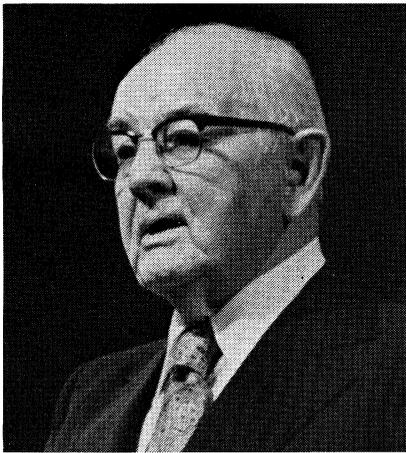
「ああ、お母さん！」ヒルダはうれしくて、急にむねがいっぱいになって、さげびました。「正面のドアのところの、水色のキラキラするものが見える？ おばあちゃんの水さしじゃなければ、あんなにキラキラ光らないわ。」



ふさわしい 神権者になろう

大管長
スペンサー・W・キンボール

神権を受けることは極めて大きな責任であり、特権である。従って神権者の不義を見過ごしにすることはできない。



私は今晚この会において素晴らしい説教を聞きながら、もし世界中のすべての少年が、またすべての男性がこのような説教を聞いて、人々が持つべき思い、目指すべき理想、そして標準を知ることができればどんなによいことだろうかと考えた。私たち教会の男性と少年たちが、個人の生活においても教会の仕事においても指導を受け、靈感を受けることができるのは、何と幸せなことだろうか。

私は今管理役員に、特にイスラエルの「共通の判士」である監督とステーク部長に話したい。

かつての大管長と予言者の言葉を読んでみよう。ジョン・テイラー大管長は次のように語ったと言われている。「さらに、何人かの監督は会員の罪を隠そうとしているということである。私は神の名によって彼らに言おう。あなたがたはその人の罪を負わなければ

ならない。あなたがたの中に人の罪に加担したい、あるいは奨励したいと思う者がいれば、あなたがたはその罪を負わなければならないだろう。監督や支部長の責任のある人々はよくこのことを心にとめていただきたい。神は罪人の処理をあなたがたの手に委ねておられるのである。あなたがたは正義の原則に手を加えたり、人々の非行、腐敗をおおい隠すために教会の高職に任命されているのではない。」(Conference Report「大会報告」1880年4月P. 78)

次にやはり大管長会の一員であったジョージ・Q・キャンノンの言葉を読もう。

「神のみたまは疑いもなく、非常に嘆き悲しみ、このような行為を犯した者を見捨てられる。そればかりでなく、私たちの周囲でこのようなことが行なわれるのを止めなかった者、行為者を責めなかった者をも見捨てられるだろう。不義を阻止し、過ちを明らかにする適切な手段を講じないとき、上は大管長から下はすべての神権者に至るまで、神のみたまは失われ、神の賜、祝福、および力の後退が見受けられることになる。」(Journal of Discourses「説教集」26:139)

さて兄弟たちよ、この点についてほかにも数多く教会幹部の話を用いることができる。

私たちは、面接する指導者が罪を犯した人に同情を寄せ、またその家族に愛を感じるあまり、その人が当然受けなければならない罪を差し控える傾向

が非常に強いことを懸念している。

罪を犯した人が当然会員権を剥奪されるか、破門されるかしなければならぬときに、赦されて何の罪も受けないことがあまりにも多い。また、破門されて然るべき罪人が会員権の剥奪で終わっていることも非常に多い。

このような場合あなたがその罪を背負わなければならないとテイラー大管長が言われたことを覚えていただきたい。兄弟たち、あなた方は人の重大な罪を背負いたいだろうか。

あなた方は予言者アルマの言った言葉を覚えているだろうか。「さて、…罪が定めてなかったならば、人は悔改めをすることができなかった。」(アルマ42:16)

このことについてしばらく考えていただきたい。あなた方はこの点に気がついていただろうか。本当の完全な悔改めをしないと、赦されることはあり得ない。しかも罪のない所に悔改めはないのである。これは確かに永遠の原則である。

もうひとつつけ加えたいことがある。決定を下すのはステーク部長か監督で副ステーク部長、副監督あるいは高等評議員は、その決定を受け入れるか、拒むかいずれかの立場に立っている。他の普通の事柄を扱うときのように、賛否の挙手をするのではない。

神の律法を破った人があなたがたの所へ来たときは、以上のことを覚えていただきたい。

不相应な同情に道を譲ることは簡単である。しかし罪を犯した人は苦しまなければならない。これは絶対に必要なことである。そしてそう要求するのは監督や支部長ではなく、人間が生まれながらにして持っている固有の性質がそうさせるのである。この処罰の手続きは、特に成人と既婚者に、中でも神殿に入った者に適用される。この人々は神の神聖な律法を曲げることはできないことを理解しなければならない。

先日私は、ジョセフ・スミスについて書いたウィルフォード・ウッドラフの記録を読んで興味を覚えた。私たちは誤った誇りを持っておごり高ぶった人を見かけることがある。こういった人は自分の思い通りに事を進めようとするか、それができなければやめるかどうかかである。監督がだれかとちよ

った口論をしたために、ワード部を去って、二度とワード部の敷居をまたごうとしない人を見たことはないだろうか。

予言者はこう言っている。「私たちは自分が占めている地位のことで高慢になることは少しも許されていない。大管長であれ、副管長であれ、使徒であれ、または他のいかなる人であれ、もし心の中で自分がいかなければ神は不自由される。主のみ業を進めていく上において自分は特に重要な存在である、と感じるなら、その人は危険な状態にある。私はジョセフ・スミスから、この教会の第二の使徒オリバー・カウドリが彼に、『もし私がこの教会を去れば、教会は倒れるだろう』と言ったということを知った。ジョセフ・スミスは『オリバー、それではやってみるといい』と答えた。彼は去った。そして彼は倒れた。しかし神の王国は倒れなかった。私は今の時代に、他の使徒でやはり自分がいなければ主はみ業を進められないと考えた人を知っている。しかし主は彼らがいなくてもみ業を押し進められたのであった。ユダヤ人にも異邦人にも、大なる者にも小なる者にも、また富める人にも貧しい人にも、すべての人に申し上げたい。全能の神は御自身の内に力を持っておられ、み業を進めていくためにだれか特定の人に依存しておられるということはない。しかし主が人を召してみ業に従事させるとき、人は主を信頼しなければならない。」(ウィルフォード・ウッドラフ、Discourse 『説教』「デゼレット・ウィークリー」 1890年4月6日、40:559, 560)

さて神権を持つ兄弟たちよ、大会のたびに遠くからこの神権会に父と子が一緒に来て出席し、大会の説教を聞くことには、特別な意義がある。

私はあなた方の中に素晴らしい若者が数多くいるのを目にし、間もなく父親となり、指導者となり、監督、ステーク部長、あるいは宣教師となっていく姿を感じるとき、大きな感激を感じる。

今この会場には非常に多くの若人がいる。そしてその多くは執事である。私は自分が執事であったときのことを覚えている。(もっともだいたい昔のことであるが。)私は執事になることは、

非常に大きな榮譽であると思っていた。父は私の責任のことにいつも心を配り、馬車で断食献金を集めることを許してくれた。私の責任は自分の住んでいた町の一角で献金を集めて回ることであった。しかし家々を回るとかなりの距離になり、その上小麦粉の袋ひとつ、果物のびん詰め1本、野菜、パンなどが集まると、大変重かった。それで馬車を使うと非常に便利で快適であった。後で現金で納めるようになったが、当時は品物で納めていたのである。天父のためにこの奉仕をすることは、大変大きな榮譽であった。時代が変わって、品物の代りにお金が納められるようになったが、この奉仕をすることは依然として大きな榮譽である。

私は今も執事である。私はいつも自分が執事であることを誇りに思っている。聖会で使徒たちが聖餐を祝福し、他の教会幹部が聖餐のテーブルの所へ行行ってパンと水を受け取り、集まったすべての人に配って空になった容器を返すのを見るとき、私は自分が執事であり、教師、祭司であることを大変誇りに思う。

神殿で開かれる特別な集会で、教会幹部が聖餐のテーブルについて祝福し、続いて聖餐を配るとき、私の心臓の鼓動は音が聞こえるほど高鳴り、私は神聖なアロン神権を持っていることと、聖餐の儀式を執行できる特権に感謝の念を抱くのである。

またパンを割いて祝福し、使徒たちに与えられたのはイエス・キリストであることを思い出す。私も同じようにできることを誇りに思う。ふさわしい状態で聖餐を配り、敬虔であるようにと話したタナー副管長や他の兄弟たちの先ほどの話を記憶していただきたい。

父親である皆さん、ウォルター・マックピークの記事を読んでお聞かせしたいと思う。「少年はリンカーンやワシントンのような英雄をたくさん必要としている。しかし同時に、すぐ身近にも英雄が必要である。大きな力を持ち、すぐれた人格を持った人を個人的に知る必要がある。町で出合ったり、一緒にハイキングやキャンプに行ったり、家の近くでふだん何気なく接触できる人が必要である。彼らは一対一で質問したり、話をしたりできる人を必要としている。」

すべての父親は息子に対してこのように身近な存在となっていたideきたい。またすべての父親は家族の夕べを開いて、息子や娘にそれぞれ自由に発言する機会を与え、家族であることを共に計画し、家族の祈りを捧げ、子供たちに家族の夕べに参加する機会を与えていただきたい。

少年の皆さん、人生には大切な目的がある。天父なる神は、あなた方のためにひとつの世界と人生を備えられた。この人生は特筆に値するものにもなれば、通りいっぺんのものにもなり得る。それはあなた方次第である。12歳ともなれば、多くのことが期待されるようになる。この人生は運にまかせて生きるものではなく、力を尽くし、努力し計画して生きるものである。ユダヤ教では、男子は12歳で成人と見なされるということである。主イエス・キリストが両親に連れられて神殿に来たとき、主がそこにとどまって指導者や博士たちと知的な会話を交わされたのは、そのためであると思われる。

さて、よく尽くしてくれる父親に恵まれた子供は、今度は自分で天父なる神、両親、それに会うすべての人に喜ばれる生活を送る責任を負っている。あなた方は成長していく過程で、ロムニー副管長が力強く話されたように、勇気を出さなければならない場面に何度も遭遇するであろう。

ある沈没寸前の船に乗っていた従軍牧師が青年に言った。「あなたは若く、前途は洋々としている。さあ、これを使いなさい。」こう言ってこの牧師は救命具を下士官に渡し、間もなく船と共に沈んでいった。

「それは1943年2月3日のことであった。この悲劇はアメリカの軍隊輸送船ドチェスター号の水雷による沈没であった。この従軍牧師のほかに、これとほぼ同じことを言って救命具を譲り、命を犠牲にした牧師が3人いた。以上の4人の内、ひとりカトリック教徒で、ふたりはプロテスタント、ひとりユダヤ教徒であった。」

人は人生を築くのに法定の年齢に達するまで待つ必要はない。幼児の時から、子供の時から始まるのである。

主イエスが神殿に行かれたのが弱冠12歳で、十字架にかけられたのが33歳であったことは興味深いことである。

また予言者ジョセフ・スミスが神から示現を受けたのがまだ15歳に満たない時であり、モロナイの訪れを受けて金版のことを知らされたのがわずか18歳の時であったことも、注目すべきことである。また金版を受け取って、重責を担ったのは、まだ22歳の時であった。そして弱冠24歳の時にモルモン経を出版し、24歳を少し越えた年齢で啓示に基づいて地上に神の王国を組織している。

さらに最初の使徒たちも若く、29歳から36歳であったことも興味深いことである。彼らがこのように若いにもかかわらず、円熟しており、強く、気品があったことは、信じられないほどである。

少年は立派な大人に成長する。これまで何千人、何万人もの宣教師が伝道に出かけ、伝道から帰ってきた。青少年は献身するなら、伝道によって立派な大人になって、背も高く、強く、立派な、しっかり目的を意識した大人になって帰還するのを目にしたのだろうか。

ある大企業の幹部は、「少年をどのようにして大人に育てるか」という質問に次のように答えている。彼に問われた質問は厳密には、「人を本当の人物にするのは何であろうか」というものであった。私は彼の答えに同意する。

「いろいろな要素があるが、少年のときに耳を傾けた内なる声が最も重要である。この声を私たちは良心と呼んでいるが、これは私たちの思いを制御する。そして人の思いは行為となって現われる。繰り返し行なう行為は習慣となるので、今あなたが考え、行なっていることは、未来のあなたを示していると言える。

少年をその名前に恥じない人物にするためには何をしなければならぬかと問われれば、私はこう答えよう。決して嘘をついたり、人をだましたりしてはならない。嘘をつく人は弱虫である。また同時に泥棒である。すべてのことについて真理を尊ぶ勇気があれば、あなたは克己の道を前進していると言える。

一生懸命に働きなさい。あなたの心は倉庫のようなもので、あなたは棚に品物を貯えるのである。良い品質の品物で倉庫を満たしなさい。あなたが今日形作る、仕事と勉強の習慣は、明日

のあなたの生活の基となることを覚えなさい。

楽しく暮らしなさい。体力とスポーツマンシップを必要とする活動的なゲームをしなさい。自分自身がルールを守り、人にも同様にしよう求めなさい。

そして創造主を敬いなさい。神はすべての善の源である。測り知れない受け継ぎに感謝を表わす最も良い方法は、『義務、名誉、国家、そして神』の規約に沿った生活をするのである。

もしこのように生活し、すべてのことについて最善を尽くすなら、あなたが培う心と魂は、いつか立派な人物の心と魂になるだろう。」(J・エドガー・フーバー)

大切なのは姿勢である。人は背が高くなることを望むとき、天に向かって伸びをし、高貴な人になりたいと思うとき、まず品性のある衣服を着、空を飛びたいと思うとき、翼を持たなければならない。また、正しい人になりたいと思えば、正義の外套をまとわなければならない。

ジョージ・ホール卿についての言伝えがある。話の真偽はともかく、これから教訓を学び取っていただきたい。

「ジョージ卿は良くない生活を送っていた。酔っ払いで、賭博に明けくれ、取引きでは不正を働き、彼の顔はそれまでの生き様を如実に反映していた。それはひどく醜い顔であった。

ある日彼は田舎の純朴な少女に恋をして、結婚を申し込んだ。ジェニー・ミアは、見苦しく醜い顔の人とは決して結婚できない、私は本当の愛の鏡である聖人のような顔の人と結婚したい、と言った。

当時皆がしていたように、ジョージ卿はロンドンのボンド街にいるアエニアス氏のところへ行行った。アエニアス氏はろうの面を作っていた。その技術は完璧の域に達していたので、人々は面をかぶっている人がだれであるかを見抜くことができなかった。その技術を証明する例として、借りたお金を使い込んだ債務者が、彼の面をかぶって債権者の前を気づかれずに歩いて通ることができた、と言われている。アエニアスは倉庫へ行って面を選び、火で熱してジョージ卿の顔につけた。そこでジョージ卿が鏡をのぞき込むと、愛

に富んだ聖人のような顔が映っていた。彼の容貌は一変し、間もなくジェニー・ミアと結婚することができた。

彼は田舎に小屋を買った。それはばらの木に囲まれてほとんど人目につかない小屋で、小さな庭がついていた。それ以来彼の生活は180度転換した。自然に興味を持つようになり、野の石に説教、小川に書物、そしてすべてのものに善を見出すようになった。以前の彼はただ遊び疲れて、人生に全く興味を持っていなかった。しかし今は親切を施すことと、周囲の世界に夢中になっていた。

彼はただ新しい生活を始めることにのみ満足しないで、過去の償いをしようとした。極秘のうちに法務官を通じて、自分が詐欺によって得た利益を返還した。そして毎日人格に磨きをかけ、美しい思いを加えていった。

ところが偶然前に彼と一緒に働いていた仲間が、彼の正体を知った。そこで彼のもとを訪れ、昔の悪い生活にもどるよう誘いかけた。彼が断わると仲間は彼を襲い、面をはぎとってしまった。

彼は顔をおおった。すべてが終わったのだ。新しく発見した人生も、愛の夢も。彼が足もとに面を落としてぼう然と立ちつくしていると、妻が庭を一目散に走ってきて彼の前に身を投げ、とりすがった。そして見上げた彼女の目に映ったのは一体何だったのだろうか。見よ、一本一本のしわから、顔の特徴の細かな点に至るまで、あの面とそっくりだった。全く美しい、均斉のとれた顔になっていたのである。

人の営む生活が、また心に抱く思いが顔に刻まれることは、疑いのないところである。

時間があるので、興味深い記事を少し読んでみたいと思う。

噂

どの町でも、どの通りでも、ほとんどどの家でも、あなたはそここをうろつく小さな鬼に出会うだろう。歯を見せて冷笑し、あなたの揺り椅子によじ登り、どこにいてもあなたにとりついてくる小鬼。そしてあなたのすぐ近くにたどりつく、

あなたの耳に何かささやきかける。
人の恥となるちょっとした噂を。
この小鬼の名前は、「小さな噂」である。
決してはっきり「知っている」とは言わない。
ただそう聞いた、と言うだけである。
しかしそれでもあなたにささやきかける。
するとあなたも行って人にささやきかける。
少しの中味がありさえすれば、
噂というものは間違っていない、
ジョンがヘンリーに言えば、ヘンリーからジョーに、
ジョーがメアリーに言えば、メアリーからフローに、
フローがミルドレッドに言えば、ミルドレッドからルースに伝わる。
そしていつの間にか真実として語り継がれるようになる。
あなたはこの小さな鬼を知っているだろう。
自分で知っているとは言わない。

これは真実だとは言わない。
ただあなたにささやくだけである。
あなたも行って、
ほかの人に話すことを知っているからである。
このようにして日が沈む前に、
彼は悪魔の業を助けるのだ。
そして喜びと善意を、
隣近所から奪い去っていく。
「噂」に気をつけよ、
彼が家に忍び込み、中傷を言いふらしたとき。
どんな場合にも証拠を求めよ。
だれから、いつ、どこで聞いたかを、
ただ口づてに聞いたというのであれば、
一言も信じないとはっきり宣言し、
私はそんな町のつまらないおしゃべりなど、
人には伝えない、と返事せよ。
噂がいくらほほえみかけ、作り笑いをしようとして、
悪魔の業を助けることは拒まなければならない。

——詩 「幸福な時」より

兄弟たち、今晚聞いた 174番の男性コーラスは本当に美しかった。あなた方に会えたことは素晴らしいことである。神権者として主に仕えることは榮譽である。主や皇帝が所有しているものよりも大きな、この貴重な神権を持つことは、何と恵まれていることだろうか。すべての少年が兄弟や父親と共にこの特権にあずかれるということは、何と素晴らしいことだろうか。神が皆さんを祝福し、今晚この集会で話されたことが心に深く浸透し、私たちの益となるように願っている。

これは主のみ業である。私はあなた方少年と成人の男子会員にこのことを知って欲しい。これは主のみ業である。私はそのことをはっきり知っている。この証をあなた方に知っていただきたい。もちろんあなた方自身もこの証をお持ちであろう。共に前進し、私たちの大きな未来に備えようではないか。神があなた方を祝福されるように、イエス・キリストのみ名により、アーメン。

成功者は克己によって 計られる

第一副管長

N・エルトン・タナー

克己は正しい道を見きわめさせ、その道を最後まで歩み続ける意志の強さを与えてくれる。



愛する兄弟たち、この偉大なタバナクルにおいて神権者の顔を眺め、世界の人々が多数放送に耳を傾けていることを思うと、ここに立つことは実に大きな特権であり、祝福であり、また靈感をたまわる機会であると思う。イエス・キリストの教会に属して神の権能を授かり、主のみ名によって行動できることは、何と名誉なことであろうか。私たちは世界中に多くの神権者がいることを思うとき、大きな感動を覚え、主を賛美したい気持ちに駆られる。

南米のプエノスアイレスでの地域総大会に出席したとき、メルケゼデク神

権指導者会において、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、チリを代表する1,300名以上もの出席者を迎えることができ、私たちは主に感謝した。一般大会には、ブラジルで5,500名以上、アルゼンチンでは10,000名以上の人が集まった。

主のみ業が前進し、主の王国が世界にあまねく築き上げられていることは明らかである。大管長が、サンパウロに神殿を建設すると発表されたとき、会員は心からの感謝の表情をありありと示していた。ブラジルとアルゼンチンの会員たちは全力を尽くして神殿建設を支持すると誓った。

福音を受け入れてその教義に従って生活する人々の生活に変化を見、彼らの証を聞くことは、実に心強いことであり、福音が真実のものであることを知る機会でもある。

ところで、ベネズエラのカラカスである晩、私たちが聖徒と求道者たちの会合に出席したときのことである。大管長は、そこに集まった出席者の数を500名と見積られた。私は話を始める前に、1974年、75年にバプテスマを受

長に見るのである。さて神の予言者であるキンボール大管長はすべての若者に、熱心に学び、清い生活をするにより身をふさわしく保ち、伝道資金を貯蓄し、伝道に出る準備をするように話された。

若い兄弟たちに申し上げたい。もしあなた方が、大管長が求めたことを実行するならば、幸福と成功はあなた方のものとなるであろう。そして多くのよいことをなし遂げ、権能をもった人から与えられる主の召しに対していつでも準備ができた状態を保つことができるのである。

ブエノスアイレスで行なわれた地域総大会に出席していて、私はジレット・レーザー社の南米全域の責任者である方に会った。彼は主が望まれる道に従って少年時代を送り、神権者としてどんな地位についてもそれを立派に果たしてきた。彼は、アルゼンチンからブリガム・ヤング大学に学び、そこで学

生自治会の会長となった。大学を出ると、アメリカ合衆国のジレット社に就職し、最近、南米全域の責任者に任命されたばかりであった。彼は大会中、キンボール大管長の話全部通訳した。

彼は予言者の通訳ができるとは、全く光栄ですと私に言った。また、彼の生涯にとって福音がどんな意味を持っているか、そしてそれは今の仕事に対してどのような備えとなったかを話してくれた。

主はいつでも、十分信頼できる人、伝道の地でよく主を代表できる人、そして、いかなる場合にも信頼でき、神の王国建設を助ける準備のできている人を求めておられる。

主は言われた。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらしなり。」(モーセ1:39)主は私たち神権者に、福音を宣べ伝える助けをし、福音を実践し、また人々も実践できるように助

けることを求めておられる。これは人々に不死不滅と永遠の生命を得させるためである。

この復活祭の時期にあたり、私は、イエス・キリストが現在生きておられ、真に生ける神の御子であること、地上に降臨し私たちのために生命を犠牲にされたこと、そして生命と救いの計画を授けて下さったことを証したい。これこそが、私たちが回復された主の教会で教えている福音である。また私たちが、神の予言者スペンサー・W・キンボールによって導かれていることをあなた方と全世界に証したい。

私たちが、自己訓練と克己の原則を適用し、神権者として受けている数々の祝福にふさわしい者となれるよう、また神のみ前に正しく歩むことができるよう、へりくだってイエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。

勇気のある人が必要である

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

最も偉大な勇気とは、どんな状況にあっても、良心と神に真実に行動するということである。

神権を持つ兄弟たち、私は今晚勇気について少し話をしたいと思う。一般に勇気には、外見に現われる勇気と内なる勇気があると言われている。

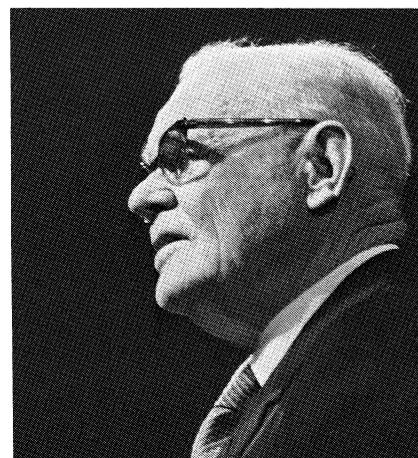
しかし私の経験から言えば、内なる勇気を持っている人、言い換えれば自分自身に真実である人は、同時に外見に現われる勇気も持ち合わせている。偉大な文豪シェイクスピアの戯曲「ハムレット」の中で、登場人物のポロニアスは息子にいろいろな点で指示を

与えている。そして長い独白を次の言葉で結んでいる。

いちばん大事なことは、おのれに誠実なれ、ということだ。

さすればかならず、夜が昼につぐごとくにじゃな、

他人に対しても誠実ならざるを得ん。
「ハムレット」1、iii、52—73(三神黙訳)



私たちは皆良心を持っており、この良心が内なる勇気の根源である。本当に勇敢な人は必ず自分の良心に従う。何が正しいのかを知っていながらそれをしない人は、臆病者である。

教会関係の出版物の中には、勇気ある人の例がたくさん見出される。例えば、予言者ジョセフ・スミスのことを少し考えていただきたい。近所のプロテスタントの牧師に示現について話したところ、彼は嘲笑された。そのとき

のことを彼は次のように書いている。

「然しながら、これにも関わらず私が先に示現を受けたことは事実である。

私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫害し罵り偽ってあらゆる悪口をあびせている間に、私は自分の胸の中で語るようになった『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ、私がどうして神に抗えようか。何故世の中の人々は、私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのか。私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。…』(ジョセフ・スミス2：24、25)

予言者は若いときだけでなく、生涯自己に真実であった。最初の示現があってから18年後に、予言者は何人かの兄弟たちと共に、「まだ建てかけで、吹きさらしになった裁判所に」何週間か「閉じこめられた。」

パーレー・P・ブラットは次のように記している。「そんな退屈なある夜、私たちは真夜中まで眠られぬまま横になっていた。しかし、見張りが口にするわいせつな冗談や聞くに耐えない汚ない言葉、恐ろしい瀆神の言葉、下品な話を何時間も聞いていると、耳も心も苦痛にうめいた。……

私はがまんしきれなくなり、気分が悪くなった。体がふるえ、義憤に燃えた。そしてすぐにも立ち上がって、見張りどもを叱責しようと思った。しかし、すぐ隣に横になっておきているにちがいないジョセフや他の人には何も言わなかった。突然ジョセフはすっと立って雷鳴かたまたま獅子の吠声かと思きまごうような声で叫んだ。それは私が記憶する限り次のようであった。

『黙れ。地獄の底からはい出てきた悪魔め。イエス・キリストのみ名によってお前たちを叱責し、口をつぐむように命じる。もう一刻たりともそのような言葉を聞いてはおれない。たった

今止めよ。さもないと私が死ぬか、お前たちが死ぬか、いずれかだ。』

彼は語るのをやめた。何人たりとも近づくことのできない威厳をもって堂々と立っていた。鎖につながれ、武器も持たずに。しかし静かに、動じることなく、天使のような風格を持ってジョセフはふるえおののく番人たちをきっと見つめていた。番人たちは武器をだらりと地にさげ、中には地面に落ちてしまった者もいた。ひぎをがくがくさせながら隅にちぢみあがっていた。ひぎまずいて、彼の赦しを請うた者もいた。そして交代のときまで静かにしていた。

パーレーは次のように続けている。「私は英国の法廷で法衣に身を包んだ裁判官と、その前に引き出され余命いくばくもない犯罪者を見たことがある。また議会在議で法を制定するのを目撃したこともある。私は、諸々の王国の命運を決定するために集まった王、王宮の部屋、王座、王冠、皇帝を想像しようと努めた。しかしここに、この小さなミズーリ州の村の牢獄で、深夜鎖につながれて立っている人ほど威厳と風格を持った人を見たことはなかった。」(Autobiography of Parley P. Pratt 「パーレー・P・ブラットの自叙伝」 p. 209—211)

明らかに予言者はここで、内なる勇氣と外見に現われる勇氣を同時に見せている。

彼は自分自身と神に真実であったので、最後には命を犠牲にすることになった。それは同時に、彼に永遠の生命と昇栄を保証するものであった。

私たちはモルモン経からニーファイの大きな勇氣を読むことができる。リーハイと家族がレミュエルの谷で宿営していたとき、主がリーハイに、息子たちをエルサレムに遣わして、レーバンから記録を手に入れて来させるよう指示されたことを覚えておられるであろう。レーマンとレミュエルは、それは「むつかしいこと」(I ニーファイ 3：5) であるとつぶやいたが、弟のニーファイはこう言った。「私は主が命じたもうたことを行っていく。私は、主が命じたもうたことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわぬことを承知

しているからである。」(I ニーファイ 3：7)

彼らはエルサレムに向かった。そしてくじを引いて、レーマンが町に入ってしまった。ところがレーマンはレーバンから泥棒呼ばわりされ、その上殺してやるとおどされた。

それでレーマンは空手で弟たちの所へ帰ってきた。彼は初めからできなと考へ、そしてそれを証明したのだった。彼は父親の所へ帰ろうと主張した。しかし弟のニーファイは言った。「主が生きていまし私が生きてるように確に、私たちは主の命じたもうたことを果すまでは荒野にいる父のところへ帰らない。」(I ニーファイ 3：15)

ニーファイの懸命な説得に従って、彼らは相続の土地へ行き、金銀やその他の貴重な品々を集めて、それでレーバンから記録を買おうとした。

ところが、その宝物が欲しくなったレーバンは、僕たちをやってそれらを奪わせた。兄弟は荒野の中へ逃げて殺されるのを免がれ、岩穴に身を隠した。そこで兄たちは「棒で〔ニーファイとサムを〕うち叩いた。」(I ニーファイ 3：28) すると天使が現われて、ふたりを責めた。しかし天使が去ると、レーマンとレミュエルは記録を手に入れることは不可能である。レーバンは「有力な人で五十人を指揮することができる、いや五十人を殺すことさえもできる。それならば、どうしてわれわれを殺さないわけがあるか」とニーファイに言った。

しかしニーファイは、「全世界が向っても主の強さにはかなわない……それなら、どうして主がレーバンとその家来の五十人よりも強くないことがあるか。いや、レーバンに何万人あっても主の強さにはかなわない。」(I ニーファイ 4：1) と答えた。

そこで兄たちはニーファイに従ってエルサレムに戻り今度はニーファイが町の中に入って記録を手に入れ、出てきた。このようにニーファイの信仰と勇氣は偉大なものであった。

リーハイの家族がエルサレムを去った頃、その地方にダニエルという若者がいた。この人の生涯も勇氣そのものであった。リーハイが去った年からちょうど3年後にあたる紀元前597年に、ダニエルはネブカデネザルによってバ

ピロンに捕われ人として連れ去られた。そこに着いて間もなく、ダニエルはシャデラク、メシャク、アベデネゴと共に、王の食物と酒で「自分を汚すまいと」（ダニエル 1：8）これを拒み、早速勇気を示している。言い換えれば、王が命じたにもかかわらず、彼は当時の人々が守っていた「知恵の言葉」を守ったのであった。

彼は後に王の夢を説いて、年老いた王に、これは「いと高き者の命令であって」（ダニエル 4：24）、王は人々から追われ、野の獣と共に住み、7年間「牛のように草を」食い、「ついにあなたは、いと高き者が人間の国を治めて、自分の意のままに、これを人に与えられることを知るに至るでしょう」（ダニエル 4：25）と言って、人並みはずれた勇気を示している。彼は続いて王に、「罪を離れ、……不義を離れなさい」（ダニエル 4：27。同 4：20、22、24、25、27参照）と勧告している。

主権が「地の果にまで」及んでいる（ダニエル 4：22）王に、ひとりの捕われ人が上のように話しかけるには、いかに勇気が必要であるか想像できるだろうか。ダニエルはその勇気を示したのである。そしてあり得ないことのように思われるだろうが、ダニエルの方が王より長生きしたのである。

このダニエルは、ネブカデネザルを継いだベルシャザル王から、壁に書かれた不思議な文字を解釈するよう呼び出されたときも、同様の勇気を示している。彼はベルシャザル王に、この文字の解き明かしはこうですと言って説明した。

「神はあなたの治世を数えて、これをその終りに至らせました。

あなたははかりで量られて、その量の足りないことがあらわれました。

あなたの国は分たれて、メデアとベルシャの人々に与えられるでしょう」（ダニエル 5：26—28参照）

勇敢なダニエルは文字の意味を読んだだけでなく、その前にベルシャザル王に、王の不思議がこの裁きを招いたのである、と宣言している。さらに罪のひとつは、王の父ネブカデネザルがエルサレムの神殿から持ち帰った器物を汚したことであり、もうひとつの罪は、「天の主にむかって」（ダニエル 5：23。ダニエル章参照）自ら高ぶっ

たことである、と王に告げている。

続いて記録を読むと、「カルデヤびとの王ベルシャザルは、その夜のうちに殺され」たとある。（ダニエル 5：30）

王国を継いだメデアびととダリヨスは、国を120の州に分け、各州にひとりの総督を立て、120人の総督の上に3人の総督を立てた。「ダニエルはそのひとりであった」（ダニエル 6：2）

この地位にあってダニエルは、大きな危険を冒して勇気を示さなければならなかった。他の「総監および総督らは、……ダニエルを訴えるべき口実を得ようとした」。彼らはダニエルをねたんでいたが、しかし何の口実も得ることができなかった。

「そこでその人々は言った、『われわれはダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのでなければ、ついに彼を訴えることはできまい』と。

こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、……一つのおきてを立て、……今から三十日の間は、ただあなたにのみ願ひ事をさせ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れる……ようにして下さい」と説いた。

さてダニエルはこのことを知ると、すぐ家に帰った。ところが彼の家の窓はあいていたので、人々は家の中を見ることができた。ダニエルは部屋の中で「以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した」（ダニエル 6：4—7、10参照）

このように自己と神に忠実であったダニエルが大きな信仰と勇気を持っていたことに疑問を抱く人は、ひとりもないであろう。

この後の物語を読む必要はないと思う。皆さんが御存知の通りである。もはや王はメデア人とベルシャ人の法律を変えることができないので、ダニエルはししの穴に投げ込まれた。しかし、主がししの口を閉ざされたので、ダニエルは救われた。

勇気に基づくすべての行為が、このような目を見張るほどの報いをもたらすわけではない。しかし必ず平安と満足が得られる。ちょうど憶病が必ず悔いと良心の苛責を引き起こすのと同じである。

私はこのことを自分の経験から知っている。私は15歳のとき革命でメキシコから追われたが、当時のことをよく覚えている。私たちの家族はテキサスのエルパソからロサンゼルスへ移った。私はそこで、モルモンを嫌う人たちに囲まれて働くことになった。しかし自分がモルモンであることは黙っていたするとしばらくしてジョセフ・F・スミス大管長がロサンゼルスへ来て、私の両親を訪れ、夕食を共にした。非常に質素な食事であった。実に乏しい食事であったことを覚えている。その日大管長は私の頭に手を置いて、「モルモンであることを決して恥ずかしいと思っ

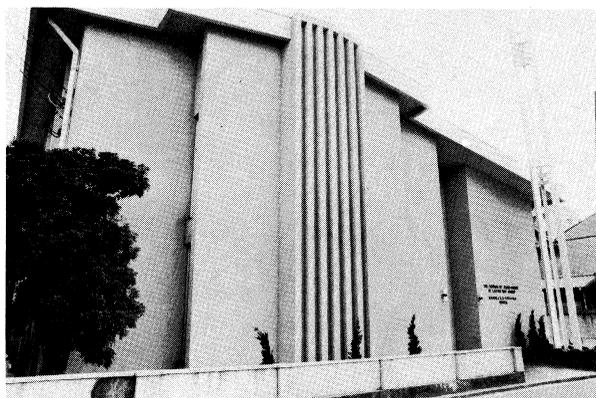
てはいけない」と言われた。実はその頃私はモルモンを口汚くのしる人々の前にいて堂々としていられない自分を情なく思っていたところだった。

またオーストラリアへ伝道に行っていたときのことも覚えている。私は壮大なジェノラン洞窟を見に行った。その中を歩いていると、ガイドが言った。どなたかあの岩の所へ行って歌を歌っていただけませんか。この洞窟の音響効果がよくわかります。」

そのときみたまは、「さあ、あそこへ行って『高きに栄えて』を歌いなさい」と私にささやきかけた。私はちゅうちょした。そうしている間に、人々は先へ進み、私は機会を逸してしまった。このことを思い出すたびに私は残念でならない。マッケイ大管長が次のように言われるのを聞いて、私はようやく主が赦して下さったと感ずることができた。彼はこう言った。「私は伝道中に、あることをするようにとのみたまの声を聞いたことがあった。しかし私はそのことをしなかった。それ以来そのことをいつも残念に思っている。みたまのささやきを受けたら、必ず従うようにしなさい。みたまを受けられるような生活をし、みたまの導きを受けたときには、それに従う勇気を持つようにしなさい。」

神権者として私たちは若いも若きも皆、すべてのことについて自己と創造主に真実であることができるよう、勇気を培う決心をしようではないか。

神がこのために私たちを祝福したもうよう、イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。



献堂式を迎えて

福岡支部 青木勝洋

福岡で伝道が始められて以来半世紀もたちました。多くの宣教師が遠く地球の裏側からやって来て、私たちのために彼ら自身の財力と勢力と体力と時間を尽くして下さり、素晴らしい献堂式が出来ました。私が教会員になって以来夢にまでみた礼拝堂が小さくても献堂されたのです。

伝道部長や多くの方が福岡にいらっしゃる宣教師と同じように働いて下さいました。ある人は大学時代夏休みを利用して土方をし、建築資金をかせぎました。残念なことに彼は自分が尽くした信仰の結果として、献堂式を見ることはできませんでしたが、今福岡から伝道に出ている兄弟、姉妹の皆様、皆様の努力が実って立派な教会堂が出来ました。この紙面を借りて、福岡で働いて下さったすべての信仰と気力あふれる方々に感謝し、献堂式は素晴らしかったことをお伝えしたいと思います。皆様の信仰や献身や犠牲が床、壁、天井の一枚一枚に刻み込まれているのです。築きあげてはくずれ、築きあげてはくずれていったのを助けた人々、どんなに苦しくとも、じっと耐えた一人一人の血と汗と涙でかためた信仰、希望、そして愛の結晶が見える形となってここにあるのです。

「さて私モロナイは少々言いたいことがある。私は、信仰とはまだ見ない物事を望むことであると世の人に教えたい。それであるから、あなたたちは自分がまだ見ていないからと言って疑ってはならない。信仰の度を試してからでないと言証が得られないからである」(イテル12章6節)

私が建築資金の献金を一人一人におねがいはするのは私自身にとって信仰を必要としました。なぜならば、会員がどれだけ収入を得ているか知っていたからです。ある姉妹に「どれ位出来るでしょうか」と聞きますと、「今はこれ位だったら出来ます」とおっしゃいましたが、私はそれ以上チャレンジしました。私にとってどれ位とっていらっしゃるか知っていながらそれ以上のことをチャレンジしなければならないのはつらいことでした。お金の小さなことで信仰が失われるかもしれないからです。私は、私たちの宗教は日曜日に楽しく集まる趣味の宗教ではないし、チャレンジ

は祝福としてあとでもどつてくと確信していましたが、それでも恐れがなくなるまで祈りました。彼女はアルバイトをして稼ぎ教会に来るためにバスに乗らずに歩いて来られたのです。私は彼女に祝福があるように祈りました。

最近早朝掃除会をしていると必ずひとりの若いたくましい教会員でない方が陰のように掃除会に出席していらっしゃるのです。

自分の時間と体力と気力と財力を尽くして貢献して下さった方々に彼らの必要と希望に応じて報いが与えられるようにまた、天の窓が開かれ祝福が与えられ彼らが一層豊かになるように祈っています。ここに献堂された礼拝堂が賢明に使われ、美しく清くそして我々の同胞が主の宮居に来た時、みたまの導きをうけ自分の家にもどったと感ずることが出来るように祈っています。悪口やねたみなどの汚れた思いがないように神聖を汚すいかなる悪魔の力もこの建物の中になきように、ここで育つ子供たちが愛と真理によって育てられるように祈っています。

最後に前に話した姉妹がどうなったかお話ししましょう。その姉妹は会員になる前は独身ですごそうと考えていらっしゃったそうですが、だんだんその気持ちも変わり世間でいったらもらい手がなくなる年令になって、すばらしい結婚をされ神殿に行かれたのです。彼女はふだんじみな服装をしていらっしゃいましたが、結婚されると明るくみちがえるようになりました。

主の祝福はなんと素晴らしいもののでしょうか。私たちの犠牲はそんなに小さくてもあまりがあるほどそれぞれに祝福が与えられたのです。私たちの必要と希望に応じて天の窓から与えられたのです。主は確かに生きていらっしゃる。私たちの働きはこれで終わったものではありません。ここに多くの礼拝堂ができ、ステーキ部が立ち、主の再臨にそなえて必要なものをことごとく整えるまで続けられるのです。そして私たちの教会と家を信仰の家、祈りの家になりたいと思います。

総大会においてどれほど多くの証を得たかわかりません。ひとつひとつ数えあげると際限がありませんが、まず総大会の音楽の責任を与えられたこと、最高のオルガンを買うことができたこと、素晴らしい指揮者、持丸先生にめぐり会えたこと、指揮者、伴奏者の合宿で証と素晴らしい仲間たちを得たこと、両親を大会に招待できたことなど。どれひとつをとってみても神様の力なしにはできない事柄ばかりです。神様が実に生きてまい私たちを助けて下さっていますことを証し申し上げます。

以前から私はどうしたら良く伝道できるかについて迷っていました。家族に、隣人に、友人に、どうしたら上手に福音を伝えてあげることができるか考え、努力してみましたが、今一つうまくゆかず、自分に伝道の才能がないことをうらめしく思っていました。今年の春のある日、天父にどうしたら伝道ができるかを問うてみました。しばらくしてから祝福師から受けた祝福文の一節を心に強く思い起こしてみました。それは、あなたの指を通して多くの人々に輝いて行くのであるという内容のものでした。ちょうどこの文が心にひびいてきた頃、町田ワードで思いがけず聖歌隊で責任を受け、ひょっとしたら祝福文の指のことは、実は指揮の祝福ではなかろうかと考えはじめました。その考えに段々傾いてきたときにさらに思いがけないことでしたが、大会の事務局長から、総大会で指揮者を探していたら、あなたのことが心にとまったのだがやってみないかと話しかけられました。私の最大の関心事であったことを知らないはずの人からズバリ言われたものですから、内心びっくりいたしました。しかし私は指揮においては、全くの素人でしたので良い先生を探して学ぼうと考えました。私には探すつてがありませんでした。霊的に先生を探してもらおうと思ひ石井由美姉妹に依頼することにしました。彼女はいろいろ考えある先生のことを思いつき早速交渉して下さいました。非常に熱心に交渉して下さいましたが、それにもかかわらずうまくいきませんでした。別な先生をお願いしたところ、彼女は「本当は持丸先生なら一番いいんだけど今は病気で教えてもらえないはずだから」と言いかけて、「何か気になるのであれば」とすぐさま、電話をかけると、「先生は二ヵ月前に奇跡的に病気が直って今はまた、もとの教えていらした学校で教べんをとっておられる」とのことでした。それから3ヵ月間非常に熱心に指揮法を教えていただきました。今考えてみても私の指揮の欠点をこれほどまでに直して下さる方は、この方をおいてほかにいなかったと感じ、深く神様の導きと先生の指導に感謝します。

総大会を通して様々な証を得ましたが、その一つとしてある伝道部の兄弟のことをご紹介したいと思います。大会の1ヵ月前の合宿のときにオルガニストとして上京され、始めてお目にか

かりましたが、彼がオルガンを弾き始めるや否や、私には、彼が大会で伴奏をするのは不可能なことと感じました。最も基本的な教則本のバイエルも弾いたこともなく、ピアノもオルガンも習ったこともなく、自己流で弾いている人が、どうして1万人以上も集う大会で弾けるのでしょうか。彼は合宿後の1ヵ月間、非常な努力をされ、人々の助けを得て、良く練習をされたそうですが、何としても1ヵ月間という期間は、短かすぎ、大会直前に彼に弾いてもらった時にも私は彼の責任をおろして別のの人に替えようと決心しました。

しかし、私が天父に祈ったときに替えなくて良いという返事が返ってきました。彼が伝道へ出る前に証を強める意味で良い機会だと感じました。しかし一方、この責任は、彼にとって余りにも重すぎると考えていました。しかし大会に出席なさった皆様は1ヵ月間しか正式に学ぶことができなかつた人が231番の伴奏をしているのに気付かなかつたでしょうか。あとでわかつた話ですが、何かの手違いで伴奏者は、男性に限ると伝道部に伝わつたために最初予定していた人をわざわざ替えて彼が選ばれたそうです。彼の演奏を讃える声を沢山聞きました。「練習の時に、途切れ、途切れていた音が、なめらかに流れていた」また「彼は練習のときは最後まで通して弾くと必ずどこか何箇所か間違っていたのに本番では、ちつとも間違えなかつた」と。

私も彼が素晴らしい顔で演奏しているのを見ました。神様は彼の証を強めるために彼を選ばれたということを感じます。また、教会員は心をひとつにするとき、実に不思議な力を発揮できる人々であると証し申し上げます。教会員ではありませんが、大会で音楽関係の仕事をした方からこうお聞きしました。「開会前の聖歌隊の練習を聞いて、このコーラス隊は大したことはないと思ひました。しかし本番のコーラスがうって変わって素晴らしかつたので非常に驚き、深く感動しました」さらに音楽を愛し、長年歌つて来られたある求道者の兄弟は、「練習のとき、音程を間違っている人がかなりいて、本番ではどうなることやらと心配していましたが、本番ではひとつも間違つた音を聞かなかつた」と言われました。「宗教音楽をこんなに感激して歌つたのは始めてです」とわざわざ留守のときにも何度か電話を下さり喜びを伝えて下さいました。

私は教会員が心から讃美の歌を歌うときには人の心を動かす素晴らしい力が出せるということを知っています。まさしくこの大会でそれを見ました。この大会は私たちが大きく成長し、さらに大きなみ業を進めるためにあつたと深く感じます。私もさらに米国建設のために働きたいと思ひます。

イエス・キリストの御名によって証いたします。アーメン。

“地域総大会の祝福に感謝す”



町田ワード部 対馬栄逸

ミルトン・R・ハンター長老

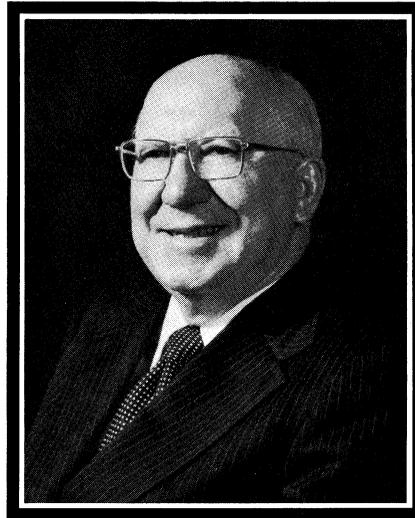
逝去さる

過去30年間七十人最高評議員会会長の召しにあったミルトン・R・ハンター長老は、数年来心臓および腎臓疾患のため病床に伏していたが、1975年6月25日、ソルトレーク・シティでその72年の生涯を閉じた。

ハンター長老は1945年に教会幹部として召される前まで、ユタ、ネバダ、ワイオミングの3つの州で17年間教鞭をとった。また23冊もの書物を著わしたが、ほとんどは宗教および歴史に関するもので、ほかにも論説、論評などを加えれば、その数は無数と言えるほど多い。代表作は*The Gospel Through the Ages*（「福音は時のへだたりを越えて」）で、これは教会幹部からの要請に基づいて書いたものであり、1946年のメルケゼデク神権者用テキストとなった。この書物には、アダム時代から今日までの福音の歴史が記されている。

ハンター長老の第一の責任が伝道にあったことは言うまでもないが、晩年はもっぱらモルモン経の研究に従事していた。考古学上の発見を数多くカメラに収め、またメキシコや中央および南アメリカの手工芸品のコレクションには目を見張るものがある。ハンター長老はモルモン経の真实性をひとりでも多くの人に理解して欲しいということから、この貴重な写真や品物をすべて教会に寄贈した。

彼が生まれたのは1902年10月25日、ユタ州ホールデンにおいてであった。ジョン・エドワードおよびマーガレット・ティープレスの間に生まれた11人の子供のうち8番目である。故郷のパブリックスクールに通った後、プロボのブリガム・ヤング高校に入り、後にブリガム・ヤング大学に籍を置いた。同大学で1929年に学士号を、1931年に修士号を得ている。その後パークレーにあるカリフォルニア大学で博士号を取得。1935年のことであった。またローガンに住んでいたファーン・ガードナーと結ばれたのは1931年7月30日、ローガン神殿においてである。ハンター長老の葬儀にあたって、キンボール大管長はこう述べた。「ハンター長老



の人生の中心は、伴侶であり協力者であったファーン姉妹と6人の素晴らしいお子さんたちでした。」

ハンター長老はこの世の名声を捨てて教会での奉仕にその身を捧げた人であった。かつてある有名な大学の歴史学部の部長が、彼に教授の誘いをかけたことがあった。受ければ名声と富は確かなものとなる。しかしハンター長老はその申し出を断わり、ユタ州ローガンにある末日聖徒のインスティテュートで教師として働く道を選んだのである。ハンター長老の辞退の言葉を耳にしたその部長は、こう言った。

「ハンターさん、私はユタのちっぴけなモルモンのセミナーなどのために、あなたの将来を台無しにしてもらいたくないのです。あなたはアメリカの偉大な歴史学者としての道を歩んで来られたお方だ。今まで私たちのもとで研鑽を積まれたのも、これから大きく花を咲かせるからでしょう。考えなおしていただけるなら、大きな文学の教授の地位をお約束しましょう。それでしたら夢もかなうでしょうし、今までの研究も実

るというものではありませんか。」しかし、ハンター長老は教会に奉仕する人であった。1945年4月に教会幹部としての召しを受けたとき、彼はユタ州ローガンのインスティテュートで教師をしていたのである。

ローガンに住んでいた頃、ハンター長老夫妻は自分たちの手で家を建てた。これはハンター長老の才能を示すものである。「インブルーメント・エラ」に掲載された記事は、その頃の様子をこう伝えている。

この家族が住むローガンの家は、自分たちで建てたものである。ハンター兄弟は、請負業者、現場監督、大工の三役をひとりでやってのけた。定例の仕事に加えて火、金、土曜の夜はインスティテュートのクラスで教え、ローガン第9ワード部やカーシュステキ部での責任は人一倍こなし、家も自分で建て、それでも飽き足らずむずかじい本を書いて出版する。時々不思議に思うのは、この誠実な夫婦によく子供を育てる時間があったな、ということである。

葬儀は1975年6月30日にテンプルスクウェアのアセンブリーホールで行なわれたが、その席上S・デルワース・ヤング長老はこう証して話を結んだ。「ハンター長老とは30年間、七十人最高評議員会で実の兄弟のようにして過ごしてきました。私は神が私たちの父であることを知っていますが、ハンター長老は私以上にそれを知っていました。イエス・キリストが贖い主であることについても同じです。私はこのことを心から、深く信じています。彼は仕える予言者すべてに対して常に忠実でした。そしてキンボール大管長が主の予言者であることを知っており、そう証していました。」

著述家であり教師、学者、そして宣教師であったハンター長老の死を惜しむ声は教会幹部のみにとどまらず、一般教会員や教会外の教育関係者からも聞かれた。彼は数々の貴重な著作を私たちに残していった。だが、福音が真実であるとの彼の証ほど価値のあるものは、ほかにないであろう。

—みたまと感動の
日本地域総大会—

神
殿
建
設
発
表
さ
る
!!

末日聖徒イエス・キリスト教会日本地域総大会は、8月8、9、10の3日間にわたって日本武道館を会場に開催され、希望と感動のうちにその幕を閉じた。予言者スペンサー・W・キンボール大管長をはじめ、教会幹部、指導者を通して与えられた数限りない祝福に、この大会に参加した1万数千の人々の胸は、今や新たな希望と決意に満ち充ちていることであろう。

とりわけ8月9日(土)午前9時の冒頭に行なわれた神殿建設の発表は圧巻であった。キンボール大管長の発表によると、東京神殿はアジアで最初、世界で第18番目の教会の神殿になる。この神殿はアジアの6万4千人の教会員が使用する。神殿は、15年以上前に教会が購入した土地に建設される。現在、日本東京伝道本部が建っており、住所は東京都港区南麻布5-8-10、有栖川宮記念公園に面している。

敷地は約1,672平方メートル(505坪)である。

この神殿の設計は、教会の建築士エミル・B・フェッツァーが担当、彼はブラジルのサンパウロに建築される神殿を設計し、1972年に献堂されたユタのプロボとオグデンの神殿も手がけた。またフェッツァー氏は、1974年11月に献堂されたワシントン神殿建設にあっても建築士の指示にあっている。

東京神殿用地に現在ある建物は取り壊され、新しい伝道本部と日本東京ステーク部のステークセンターは、現在の東京第3ワード部の敷地内に建設される。

施工図は1976年初旬に完成し、1976年前半には着工、1年半ないしは2年間の工期が見込まれている。

神殿は地下1階、地上4階で、1階は23メートル×40メートル、2階以上は23メートル×26メートルになる。建物の主要部は地上約20メートル、ステンドグラスを配した塔が55メートルの高さに及ぶ。また神殿の両側には、エレベーターと階段用の塔がふたつ置かれる。

地震対策に厳しい基準を設けている東京都の建築基準に適合させるため、神殿はコンクリートと鉄筋で補強され、表面には白色の石を使用する。また空調設備も完備する。

神殿招待者が入場できるのは、ロビー、神殿長会と花嫁介添役の事務室、青少年控室、子供室、衣類給与室、食堂、台所、洗濯室のある一階である。

また、一階には神殿衣類配送センターが設けられるが、専用の入口からしか入場できない。二階には、男性用、女性用のロッカー室、花嫁の着付け室、講話室、花婿の講話室が設けられる。

また、神殿長夫妻の住居も二階に設けられるが、これには外部専用出入口がしつらえられる。この住居は、寝室2、浴室、食堂、居間、台所からなる。

三階には、120名収容の神殿参入者用礼拝堂と、死後も永遠に続く結婚式を執り行なう結び固めの部屋5室を設ける。神殿外ですでに結婚した夫婦は、神殿において彼らの結婚を神聖なものとする事ができる。このような夫婦のもとに生まれる子供はその両親に対する関係を永遠に持続させることができる。

また三階には神殿職員用のロッカーと談話室がある。

四階には、各100名収容の儀式的な部屋がふたつと日の光栄の部屋が設けられる。

神殿の地下に設けられる浸礼盤は、古代ソロモン神殿の浸礼盤と同様、12頭の牛の像の上にのせられている。また地下には、機械室、倉庫、16台分の駐車場が設けられる。

神殿の敷地は、確かに面積の点で制限があるが、日本の伝統を生かした美しい庭園が造られる予定である。神殿の周囲には石堀がめぐらされるが、所々に鉄製のフェンスを設け、通行人が庭園を眺められるようにする。

フェッツァー氏は、神殿用地を選ぶ上での決定要因として、交通機関の至便さをあげている。地下鉄日比谷線の広尾駅まで徒歩わずか5分の所に立地している。飛行機、列車、船を利用して東京に来る参入者は、到着地点から直接地下鉄の主要駅へ向かい、広尾駅まで行くことができる。

またバスも神殿の近くにとまる。神殿用地付近には、ブルガリヤ、スイス、ノルウェーの各大使館がある。

東京大会を終えるとキンボール大管長は、マニラ、香港、台北、ソウルにおいて同様の集会を開き、各地の教会員に神殿建設計画を説明した。

なお日本地域総大会関係の記事は、10月号に特集される予定である。

